

# 前谷遺跡Ⅺ

埋蔵文化財発掘調査報告書

2022

埼玉県戸田市教育委員会



## はじめに

埼玉県南東部に位置する戸田市は、荒川の自然に恵まれ、古くから交通の要衝として発展してきました。現在は交通の利便性から都心部のベッドタウンとして市街地化が進み、人口14万人を超える都市に成長しています。

近年、まちの景観の変化とともに社会的、文化的な環境も変わってきておりますが、古来から受け継がれてきた伝統や歴史を守り、人々の絆を一層強いものとするために、文化財の保護が求められているところです。

今回報告いたします前谷遺跡第11次発掘調査は、個人住宅建設に伴い令和3年に緊急発掘調査が行われたものです。

この発掘調査により、弥生時代後期から中世に生活を営んだ人たちが遺した貴重な資料を多数検出し、当時の人々の生活や土地利用のあり方などを知る良好な資料を得ることができ、地域の遺跡の性格の一端を明らかにすることができました。本書が、戸田をより深く学習するための一助となることができたら幸甚に存じます。

最後になりましたが、本事業の遂行にあたり、御尽力、御協力を賜りました関係各位に対し、厚く御礼申し上げます。

令和4年3月

戸田市教育委員会  
教育長 戸ヶ崎 勤

## 例 言

1. 本書は、埼玉県戸田市上戸田二丁目25番1に所在する前谷遺跡第11次発掘調査の発掘調査報告書である。
2. 発掘調査は、事業者による個人住宅建設に伴う緊急発掘調査として、埼玉県戸田市教育委員会（以下、「市教委」という。）が実施した。また、出土品等整理及び報告書作成作業は、市教委が実施した。
3. 発掘調査は、令和3年7月12日から令和3年8月25日まで行い、整理作業・報告書作成作業は令和3年9月1日から令和4年2月28日まで市教委生涯学習課埋蔵文化財等整理室及び戸田市立郷土博物館事務室にて実施した。
4. 発掘調査及び整理作業、報告書作成に要した経費は、全て戸田市の負担による。
5. 本書は市教委が刊行し、今井源吾が編集及び執筆を行った。
6. 発掘現場での記録写真及び出土遺物の撮影は今井源吾が行った。
7. 本書の著作権は、市教委が保有する。発掘調査成果の周知、活用、学術研究、教育等を目的とする場合は、本書の一部を無償で複製し、利用できるものとする。
8. 出土遺物及び発掘調査の各種データ等は全て市教委が保管し、活用を図るものとする。
9. 本事業は以下の組織により実施した。

### 【埼玉県戸田市教育委員会】

教 育 長 戸ヶ崎 勤

教 育 部 長 山上 睦只

次 長 星野 正義

生涯学習課長 鎌田 陽子

高屋 勝利

生涯学習課主幹 本橋 洋

生涯学習課主事 金子 遥奈

今井 源吾（出土品整理・報告書作成担当）

発掘調査及び整理作業参加者

榎本 昇 榎本 眞由美 大熊 福太郎 梶木 美奈子 川合 アケミ 平吹 通之

中信 節子 山岸 榮

10. 調査及び本書を作成するにあたり、次の方に御指導、御協力を賜った。記して謝意を表すものである。

若松 良一

（敬称略 五十音順）

## 凡 例

1. 挿図中の地図、検出遺構実測図等の方位は、図中に真北の方位を示した。
2. 本書の国家座標、緯度、経度は世界測地系に則している。
3. 遺構番号は調査の進捗過程で、そのプランの確認された順に遺構の種別ごとに付したが、整理・報告書作成作業の過程で遺構番号を振り直している。なお、遺構略号は下記のとおりである。  
SX：周溝状遺構 SD：溝状遺構 SK：土坑 P：ピット
4. 発掘調査時の土層観察における色調及び遺物観察における色調は、『新版 標準土色帖』2013年度版（小山正忠・竹原秀雄 編・著、農林水産省農林水産技術会議事務所監修、財団法人日本色彩研究所 色票監修、日本色研事業株式会社 発行）を参考にした。
5. 遺構断面図内の土層説明は、全て記録者の記載に従う。
6. 遺物拓影図は、向かって左側に内面を、右側に外面を示した。ただし外面のみの場合には、向かって左側に外面を示した。
7. 遺物の種別のうち、弥生時代後期後半から古墳時代前期に属する土器は、すべて「土師器」と表記した。
8. 遺物実測図のうち、土師器の断面は白抜きにした。また、拓影がない赤彩部はトーンで図示した。
9. 遺物観察表法量の [ ] の値は残存部からの推定値を示す。
10. 遺物実測図及び遺構実測図、写真図版の縮尺はすべて挿図中に示した。
11. 標高は、T. P（東京湾中等潮位）を基準とした。
12. 遺構実測図の水系レベルはすべて標高3.20mに統一した。
13. 土層断面図の層位番号は、基本土層と共通するものはローマ数字、個別の遺構覆土の層位はアラビア数字で示した。
14. 遺物実測図及び遺物写真図版の個別番号のうち、「①」のように示した遺物は遺構平面図中に出土地点を示した資料であり、遺構平面図中の「①」に対応している。一方、「1」のように示したものは一括取り上げ資料であり、遺構平面図に出土地点を示していない資料である。
15. 出土遺物の註記は、下記の原則に基づき行った。

例：MY. 11. SX — 1. 1

遺跡略号 調査次 遺構種別 遺構番号 遺物番号

表面採取遺物や攪乱層出土遺物については、遺跡略号及び調査次のみを記載した。

なお、写真図版中の遺物写真には、旧遺構番号のまま註記を修正していないものがある。

# 目 次

はじめに

例言／凡例

目次／挿図目次／挿表目次／図版目次

## 第1章 調査に至る経緯と経過

第1節 調査に至る経緯・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1

### 第2節 発掘調査と整理作業の経過

1 発掘調査・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1

2 整理作業・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2

## 第2章 周辺環境と遺跡・調査の概要

第1節 地理的環境・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3

第2節 歴史的環境・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4

第3節 遺跡・調査の概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 6

第4節 基本土層・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 12

## 第3章 検出された遺構と遺物

### 第1節 弥生時代後期後半から古墳時代前期の遺構と遺物

1 周溝状遺構・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 13

2 溝状遺構・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 19

3 土坑・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 25

### 第2節 平安時代から中世の遺構と遺物

1 溝状遺構・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 27

### 第3節 その他の遺構と遺物

1 ビット・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 29

2 遺構外出土遺物・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 30

## 第4章 まとめ

1 弥生時代後期後半から古墳時代前期の遺構と遺物・・・・・・・・・・・・ 33

2 平安時代から中世までの遺構と遺物・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 34

3 まとめ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 34

参考文献

前谷遺跡試掘調査出土遺物・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 35

写真図版

報告書抄録／奥付

## 挿図目次

第1図	埼玉県の地形・・・・・・・・・・	3	第18図	第5号溝状遺構実測図 (SD05) ・・・・・・・・・・	2 2
第2図	戸田市域の地形・・・・・・・・・・	4	第19図	第6号溝状遺構実測図・遺物出土 状況図 (SD06)・・・・・・・・	2 3
第3図	前谷遺跡及び周辺の遺跡位置図・	5	第20図	第6号溝状遺構出土遺物実測図 (SD06)・・・・・・・・	2 4
第4図	前谷遺跡調査区位置図・・・・・・・・	8	第21図	第7号溝状遺構実測図 (SD07)・・・・・・・・	2 4
第5図	調査区全体図・・・・・・・・・・	9	第22図	第1・2・3・4号土坑実測図 (SK01・02・03・04)・・	2 6
第6図	調査区等高線図・・・・・・・・・・	1 0	第23図	第1・3号土坑出土遺物実測図 (SK01・03)・・・・・・・・	2 7
第7図	基本土層図・・・・・・・・・・	1 2	第24図	第3号溝状遺構実測図 (SD03) ・・・・・・・・	2 8
第8図	第1号周溝状遺構実測図・遺物出土 状況図 (SX01) (1)・・・・・・・・	1 4	第25図	第3号溝状遺構出土遺物実測図 (SD03)・・・・・・・・	2 9
第9図	第1号周溝状遺構実測図・遺物出土 状況図 (SX01) (2)・・・・・・・・	1 5	第26図	第1～9号ピット実測図 (P01 ～P09) (1)・・・・・・・・	2 9
第10図	第1号周溝状遺構出土遺物実測図 (SX01) (1)・・・・・・・・	1 6	第27図	第1～9号ピット実測図 (P01 ～P09) (2)・・・・・・・・	3 0
第11図	第1号周溝状遺構出土遺物実測図 (SX01) (2)・・・・・・・・	1 7	第28図	遺構外出土遺物実測図・・	3 1
第12図	第2号周溝状遺構実測図・遺物出土 状況図 (SX02)・・・・・・・・	1 8	第29図	上戸田 2-25-2 他出土遺物実測図 ・・・・・・・・	3 5
第13図	第2号周溝状遺構出土遺物実測図 (SX02)・・・・・・・・	1 8	第30図	上戸田 2-27-8 出土遺物実測図 ・・・・・・・・	3 6
第14図	第1号溝状遺構実測図 (SD01) ・・・・・・・・	1 9	第31図	上戸田 2-25-2 他、上戸田 2-27-8 平面実測図・・・・・・・・	3 6
第15図	第1号溝状遺構出土遺物実測図 (SD01)・・・・・・・・	2 0			
第16図	第2号溝状遺構実測図 (SD02) ・・・・・・・・	2 0			
第17図	第4号溝状遺構実測図 (SD04) ・・・・・・・・	2 1			

## 挿表目次

第1表	前谷遺跡周辺遺跡の概要 ・・・・・・・・	5	第4表	第1号溝状遺構出土遺物観察表 ・・・・・・・・	2 0
第2表	第1号周溝状遺構出土遺物観察表 ・・・・・・・・	1 7	第5表	第6号溝状遺構出土遺物観察表 ・・・・・・・・	2 4
第3表	第2号周溝状遺構出土遺物観察表 ・・・・・・・・	1 8	第6表	第1・3号土坑出土遺物観察表 ・・・・・・・・	2 7
			第7表	第3号溝状遺構出土遺物観察表	

.....	29
第8表 ビット計測表	..... 30
第9表 遺構外出土遺物観察表	..... 32

第10表 遺物出土点数・重量一覧	..... 32
第11表 上戸田2-25-2他、上戸田2-27-8 試掘調査出土遺物観察表	..... 36

## 図版目次

### 図版1

- 1 西側調査区 完掘（東から）
- 2 東側調査区 完掘（西から）

### 図版2

- 1 東側調査区 完掘（北西から）
- 2 第1号周溝状遺構断面 A-A'（南から）
- 3 第1号周溝状遺構断面 B-B'（東から）
- 4 第1号周溝状遺構断面 D-D'（西から）
- 5 第1号周溝状遺構北溝完掘（北東から）
- 6 第1号周溝状遺構南溝完掘（西から）
- 7 第1号周溝状遺構南溝完掘（西から）
- 8 第1号周溝状遺構 遺物出土状況（1）  
（南から）

### 図版3

- 1 第1号周溝状遺構 遺物出土状況（2）  
（東から）
- 2 第2号周溝状遺構壁断面 A-A'（北から）
- 3 第1・2号周溝状遺構完掘（東から）
- 4 第1号溝状遺構断面 A-A'（北東から）
- 5 第1号溝状遺構・第2号土坑断面  
（北東から）
- 6 第1号溝状遺構・第2号土坑完掘  
（北東から）
- 7 第2号溝状遺構完掘（南西から）
- 8 第3号溝状遺構断面 B-B'（西から）

### 図版4

- 1 第3号溝状遺構完掘（1）（東から）
- 2 第3号溝状遺構完掘（2）（東から）

- 3 第4号溝状遺構断面 B-B'（北から）
- 4 第4号溝状遺構完掘（南東から）
- 5 第5号溝状遺構断面 B-B'（西から）
- 6 第5号溝状遺構完掘（南東から）
- 7 第6号溝状遺構断面 A-A'（西から）
- 8 第1号周溝状・第6号溝状遺構東壁断  
面（北西から）

### 図版5

- 1 第6号溝状遺構完掘（北東から）
- 2 第7号溝状遺構完掘（北から）
- 3 第1号土坑断面 A-A'（北から）
- 4 第1号土坑完掘（北から）
- 5 第3号土坑完掘（南から）
- 6 第4号土坑完掘（北西から）
- 7 遺構外土師器壺出土状況（南から）
- 8 基本土層（南から）

### 図版6

出土遺物①

### 図版7

出土遺物②

### 図版8

出土遺物③

### 図版9

出土遺物④



# 第1章 調査に至る経緯と経過

## 第1節 調査に至る経緯

令和2年2月、事業者から戸田市教育委員会（以下、「市教委」という。）に対し、戸田市上戸田二丁目25番1における207.49㎡の個人住宅建設事業計画及び埋蔵文化財の取り扱いについて相談があった。

当該事業計画地は前谷遺跡の包蔵地内であったため、令和3年6月21日に市教委による試掘確認調査を実施した。試掘調査では、弥生時代後期から古墳時代前期に帰属する溝状遺構等が確認され、同時期に帰属するものと考えられる土器を検出した。

今回の事業計画地について試掘調査の結果に基づき市教委と事業者間で埋蔵文化財の保存について協議をもち、基礎工事等で埋蔵文化財の破壊が避けられない部分（207.49㎡）については記録保存のための緊急発掘調査を行い、残りの部分（612.15㎡）は、遺構確認面から30cm以上の保護層を確保することにより埋蔵文化財の現状保存を実施することで合意した。

令和3年4月27日、事業者から文化財保護法第93条の規定に基づく埋蔵文化財発掘の届出が提出され、市教委は令和3年7月2日付戸教生第448号にて埼玉県教育委員会（以下、「県教育委員会」という。）に宛て進達した。

これを受け、県教育委員会から事業者に対し、令和3年7月5日付け教生文第5-915号で、事業計画地内における工事着手前に発掘調査を実施するよう指示があった。

発掘調査に当たり、事業者は、市教委に対し、令和2年10月26日付けで発掘調査の依頼書を提出していた。また、令和3年7月7日付け戸教生第630号にて事業者及び市教委の二者による「個人住宅建設予定地に係る埋蔵文化財の取扱いに関する協定書」を締結した。

そして、文化財保護法第99条に基づき、市教委から県教育委員会宛てに令和3年7月8日付け戸教生第627号にて埋蔵文化財発掘調査の通知を提出し、前谷遺跡第11次発掘調査を実施することとなった。

## 第2節 発掘調査と整理事業の経過

### 1 発掘調査

前谷遺跡第11次調査は、令和3年7月12日から8月25日まで実施した。調査面積は、207.49㎡である。7月12日に機材搬入、発掘現場の仮囲い等を行った。調査区は、西側と東側に分割し、掘削で生じた排土は調査区の未掘削範囲に仮置きして、ブルーシートをかけて保管した。同日重機による調査区西側部分の表土剥ぎを実施した。13日に発掘調査補助員を動員し、人力による遺構確認を行い、遺構検出状況の図面作成と写真撮影を行った。発掘調査での写真撮影は、全てデジタル一眼レフカメラNikon D5100を使用し、JPEG形式にて撮影した。また、委託業者によ

る調査区の測量、基準杭打設を令和3年7月14日に行った。13日から検出された遺構の番号付与及び土層観察用ベルトを設定し、遺構掘削を開始した。7月13日から8月2日まで遺構掘削と遺構平面図、土層断面図作成、出土遺物の取り上げを行った。平面図及び出土遺物の取り上げは、全て簡易遺り方測量で実施した。西側調査区の調査は、8月2日までに終了し、8月3日に重機による埋め戻し及び整地を実施した。

東側調査区は、8月3日に調査区を設定し、翌4日に重機による表土剥ぎを実施した。8月5日に遺構検出を行い、遺構検出状況の図面作成と写真撮影を行った。8月5日から検出された遺構の番号付与及び土層観察用ベルトを設定し、遺構掘削を開始した。8月5日から8月24日まで遺構掘削を行い、遺構平面図、土層断面図作成、出土遺物の取り上げを行った。東側調査区の調査は、8月24日までに終了し、8月25日に重機により東側調査区の埋め戻し・整地を行い、機材を撤去し、全ての現場作業が完了した。

## 2 整理作業

当該調査に係る出土品及び図面の整理作業、報告書作成は令和3年9月1日から令和4年2月28日まで生涯学習課埋蔵文化財等整理室及び戸田市立郷土博物館博物館事務室にて実施した。

発掘現場で採取した出土品は、洗浄・註記・接合を行った。その後、報告書に掲載するもの抽出・実測図作成・拓影採取を行った。採取した拓影はスキャナにてコンピュータに取り込んだ後、Adobe Photoshopにて修正し、デジタルデータ化した。遺物実測図、発掘現場で遺構平面図、土層断面図等の図面類も、スキャナでコンピュータに取り込み、デジタルデータ化した。これらの各種図面データは、Adobe Illustratorにてデジタルトレースを行った。

遺物写真は、CanonEOS80D、18～50mmズームレンズを使用してRAW（NEF）形式で撮影し、Digital Photo Professionalにより現像処理、ホワイトバランス等の補正を行い、jpeg形式ファイルを作成した。版下は、Adobe Illustrator、Adobe InDesignにて作成し、PDF形式ファイルにて入稿した。

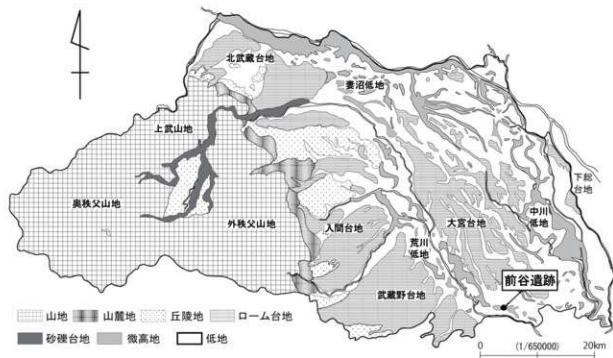
## 第2章 周辺環境と遺跡・調査の概要

### 第1節 地理的環境

戸田市は、埼玉県最南端部に位置し、東西約6.0km、南北約3.0km、面積18.19km<sup>2</sup>の東西に細長い形状を呈する。北はさいたま市、東は蕨市及び川口市にそれぞれ地続きで接し、西の朝霞市及び和光市、南の東京都板橋区及び北区とは、荒川を隔てて接している。市域には、国道17号線(旧中山道)や新大宮バイパスが南北に走り、首都高速5号線、東京外郭環状道路、JR埼京線の開通により交通の利便性が高まり、急激な市街地化が進んでいる。都心に近い立地のため、工場や流通センターが数多く所在する。

戸田市の地形は、約2万年前の最終氷期に形成された開析谷を、利根川等の河川が運搬した土砂で充填してできた平坦な沖積低地(荒川低地)に位置している。荒川低地の下流には標高3mほどの微高地が発達し、市内では中央部を西は美女木から上戸田を通り、東は川口市まで荒川にそって分布し、この微高地の南北に低地が裾のように広がる。この微高地は自然堤防とする説もあるが、荒川右岸に微高地が確認できないことや、形状が団子状を呈していることから浅谷もしくは海成段丘との指摘もある。

市内の地層は、戸田市本町付近では地下50mの地点に開析谷の基底礫層があり、その上に軟弱な沖積層が充填している。沖積層の上部2mから3mの層は戸田・蕨地域ではよく見ることが出来る黄褐色・灰白色のシルト質粘土層で、戸田市においては遺跡の検出面としている層である。この層は岩質が均一である点や、微低地にはヨシ・マコモなどの水辺植物の遺体からな

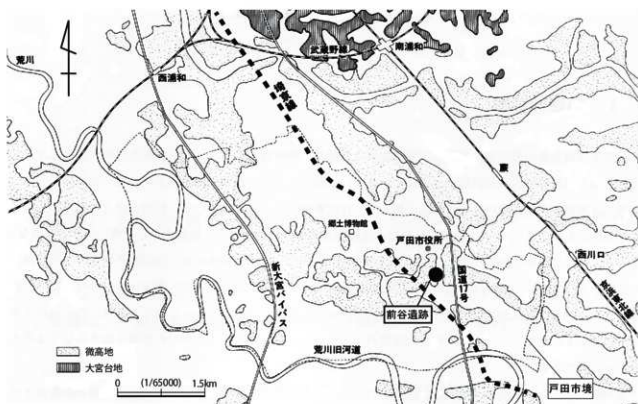


第1図 埼玉県の地形

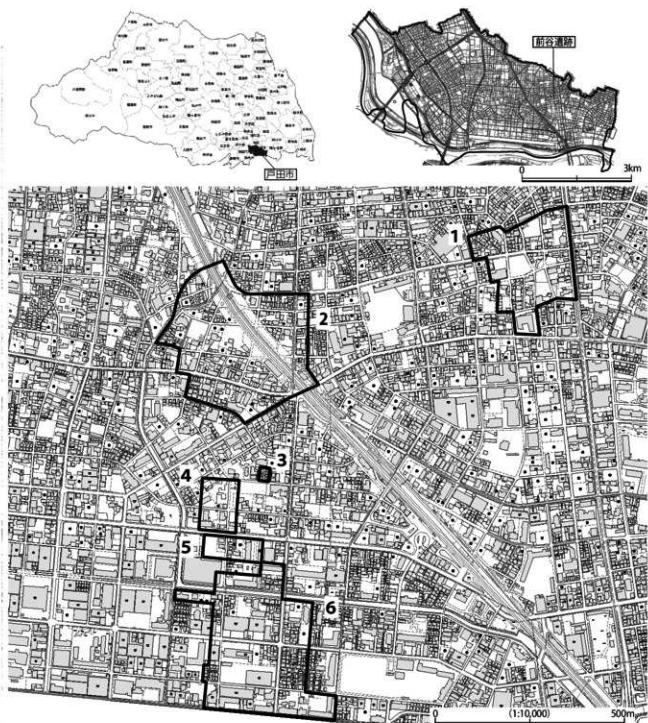
る泥炭層が挟在していることから、荒川低地を流れていた旧利根川が中川低地に東遷し、デルタ的環境から流水の影響の少ない湖沼・潟的な環境に移行した後に形成された層である。形成時期については、泥炭層の炭素年代が  $1640 \pm 60\text{yBP}$  とされることから、弥生時代末から古墳時代前期の時期にあたり、市内に初めて集落が形成された当時は微高地の周囲には湖沼・潟的な環境が広がっていたとみられる。

## 第2節 歴史的環境

戸田市では、現在までのところ旧石器時代の遺構・遺物は確認されていない。縄文時代に帰属する遺跡も確認されていないが、縄文時代前期後葉から後期中葉までの土器片が検出されている。前期では、堤外から前期後葉諸磯 a 式の破片資料 1 点が出土しており、本町からは前期末のほぼ完形の十三菩提式深鉢形土器が出土している。また、戸田市文化会館の建設中に、含礫砂層から縄文時代前期から中期の頃の化石人骨が見つかった。人骨の周囲には丸木舟とみられる木屑なども見つかり、この時期の戸田地域が海進の影響を受けていたことが分かる。中期は、鍛冶谷・新田口遺跡・前谷遺跡や南原遺跡などで勝坂式・阿玉台式や加曾利 E 式期の土器片が検出されている。後期は、鍛冶谷・新田口遺跡では、堀之内式、加曾利 B 式の土器片が出土しており、堤外からも同型式期に帰属する土器片が出土している。



第2図 戸田市域の地形



第3図 前谷遺跡及び周辺の遺跡位置図

第1表 前谷遺跡周辺遺跡の概要

No.	遺跡名	所在地	種別	主な時代	立地
1	前谷遺跡	戸田市上戸田2丁目	集落跡・城跡跡	弥生後期・古墳前期・平安・鎌倉・南北朝・室町	微高地
2	新谷谷・新田口遺跡	戸田市上戸田3・5丁目、本町3丁目、大字新宮	集落跡	弥生後期・古墳前期	微高地
3	大前遺跡	戸田市本町3丁目	集落跡	古墳前期・平安・南北朝・室町	微高地
4	上戸田本村遺跡	戸田市本町3丁目	集落跡・円墳	弥生後期・古墳前期/後期・中世	微高地
5	南町遺跡	戸田市南町	集落跡	古墳前期	微高地
6	南原遺跡	戸田市南町	集落跡・円墳	弥生後期・古墳前期/後期・奈良・平安・鎌倉	微高地

縄文時代晩期から弥生時代中期にかけての遺構・遺物は確認されていないが、弥生時代後期末から古墳時代前期初頭になると、市域内の微高地上に遺跡が形成されるようになる。

弥生時代後期末から古墳時代前期では、前谷遺跡、鍛冶谷・新田口遺跡、南町遺跡、南原遺跡、上戸田本村遺跡及び根本橋遺跡で遺構・遺物が検出されている。この中でも昭和51年(1976)に埼玉県選定重要遺跡に選定された鍛冶谷・新田口遺跡は、当該期の方形周溝墓(周溝状遺構)群や集落跡、木器の出土などから全国的に有名である。上戸田本村遺跡では、第2次及び第3次調査では、環濠と思われる溝状遺構と溝の東部に密集する竪穴建物群を検出していることから、上戸田本村遺跡周辺が当該期の環濠集落であった可能性が高い。中期の遺構・遺物が検出された遺跡は南原遺跡第2次調査B区で竪穴建物跡3軒、第9次調査で井戸跡1基、第10次調査で竪穴建物跡1軒と、土坑2基が確認されたのみである。

古墳時代後期は、上戸田本村遺跡や南原遺跡周辺で群集墳が形成される時期である。上戸田本村遺跡内には、「くまん塚」と呼ばれた円墳が所在し、そこから横穴式石室の石材の一部と直刀2振が出土している。また、上戸田本村遺跡では鬼高期の竪穴建物跡2軒、馬形埴輪や人物埴輪、円筒埴輪が出土した古墳周溝が1基検出されている。南原遺跡では、第1次調査で人物埴輪、円筒埴輪等が出土した円墳1基、第2次調査A区で円形周溝墓(円墳)1基、第3次調査D区で鬼高式期の竪穴建物跡1軒と屋外竈1基、第4次調査で円形周溝墓(円墳)2基、6次調査で円形周溝墓(円墳)1基、第8・9次調査で馬形埴輪、人物埴輪、家形埴輪、円筒埴輪等が出土した古墳周溝が2基検出されている。第12次調査では、人物埴輪、鶏形埴輪、円筒埴輪が出土した古墳周溝が1基検出されている。

平安時代は、南原遺跡、鍛冶谷・新田口遺跡、前谷遺跡で竪穴建物跡、掘立柱建物跡、井戸跡、土坑群、柵列跡、畝状遺構が検出されている。

中世は、市の西部からさいたま市の南西部がかつて佐々木郷に当たり、鎌倉時代から戦国時代にかけて鶴岡八幡宮の社領であった。当該期は、大前遺跡や上戸田本村遺跡、前谷遺跡、南原遺跡、南町遺跡及び美女木八幡社脇遺跡で掘立柱建物跡、溝状遺構、井戸跡などが検出されている。

近世は、市の大半の村が幕府の直轄領となり、徳川家の鷹場として使用されていたことがわかっている。また、五街道の一つである中山道の整備に伴い、荒川を渡る「戸田の渡し」が板橋宿と蔵宿を結ぶ交通の要所として機能していた。当該期は鍛冶谷・新田口遺跡第9次調査で溝状遺構や井戸跡が、美女木八幡社脇遺跡では美女木八幡社を廻っていた堀の跡が検出されている。

### 第3節 遺跡・調査の概要

前谷遺跡は、JR埼京線戸田駅から南東に約600mの埼玉県戸田市上戸田二丁目地内に所在する。遺跡周辺には、「橋構」、「竹ノ内」、「左衛門屋敷」、「雑色」、「元蔵」等の地名が古くから残っている。中山道蔵宿の成立が元蔵からの移住に伴うことが、戸田・蔵の近世文書で確認できることから、中世には同地に六斎市などが開かれていたとみられ、また土塁の一部であった可能性のある地膨れ状の地形が残存していたことから、「蔵城」がこの地域に存在していた可能性が指摘されている。

本遺跡は、昭和47年の第1次発掘調査から、本調査を含めて11次にわたる発掘調査が実施されている。

第1次発掘調査は、昭和47年(1972)8月23日から9月6日までの期間で、店舗建設に伴う緊急発掘調査として市教委が実施した。検出した遺構は、弥生時代後期後半から古墳時代前期初頭の周溝状遺構2基と平安時代から中世の溝状遺構8条などである。遺物は、周溝状遺構から複合口縁を持つ壺形土器、台付甕形土器、広口壺形土器、高環形土器などが出土している。第3溝から10世紀代に比定できる灰釉陶器、須恵器、土師器等が検出され、第4溝は、断面形状が葉研状を呈しており、中世城館の堀であった可能性が指摘されている。

第2次発掘調査は、平成19年(2007)2月13日から3月20日までの期間で、共同住宅建設に伴う緊急発掘調査として戸田市遺跡調査会が実施した。検出した遺構は、弥生時代後期後半から古墳時代前期初頭の周溝状遺構2基、平安時代の掘立柱建物跡1棟、溝状遺構3条、中世の溝状遺構2条、井戸跡2基、土坑1基、その他時期不明であるが平安時代から中世に帰属する可能性がある柵列跡4列、土坑4基、ピット43基である。出土遺物は、弥生時代後期後半から古墳時代前期初頭の土器、平安時代の瓦塔片、土師器、須恵器、中世の陶器、漆器、板碑、その他土製紡錘車、砥石等である。これらのなかでも詳細な時期・産地は不明であるが、第5号溝状遺構から出土した線刻画が施された須恵器瓶の破片資料は、他に類例が少なく、特筆できる。

第3次発掘調査は、平成23年(2011)12月1日から平成24年(2012)1月31日までの期間で、戸建分譲住宅建設に伴う緊急発掘調査として、財団法人埼玉県埋蔵文化財調査事業団が実施した。検出した遺構は古墳時代前期の周溝状遺構6基、井戸跡1基、土坑10基、平安時代の土坑37基、井戸跡3基、溝状遺構1条、ピット59基、中・近世の溝状遺構4基、井戸跡1基などである。遺物は、複合口縁を持つ壺形土器、甕形土器、台付甕形土器、無頸壺、8・9世紀の東金子、南比企及び末野産の須恵器、中世の常滑焼、近世の天目茶碗等が出土している。

第4次発掘調査は、平成23年12月26日から平成24年1月18日までの期間で戸建専用住宅建設に伴う緊急発掘調査として、財団法人埼玉県埋蔵文化財調査事業団が実施した。検出した遺構は、弥生時代後期後半から古墳時代前期初頭の周溝状遺構1基、溝状遺構1条、平安時代の溝状遺構3条を検出した。出土遺物は、弥生時代後期後半から古墳時代前期初頭の土器、平安時代の土師器、須恵器、緑釉陶器、瓦塔片、中世の陶器等を検出した。

第5次発掘調査は、平成28年(2016)6月1日から6月30日までの期間で個人住宅建設に伴う緊急発掘調査として市教委が実施した。検出した遺構は、弥生時代後期後半から古墳時代前期初頭の周溝状遺構4基、溝状遺構1条、平安時代の溝状遺構1条、土坑2基、井戸跡2基、その他時期不明のピット11基を検出した。遺物は、弥生時代後期後半から古墳時代前期初頭の土師器、平安時代の須恵器、ロクロ土師器、中世の陶器片を検出した。

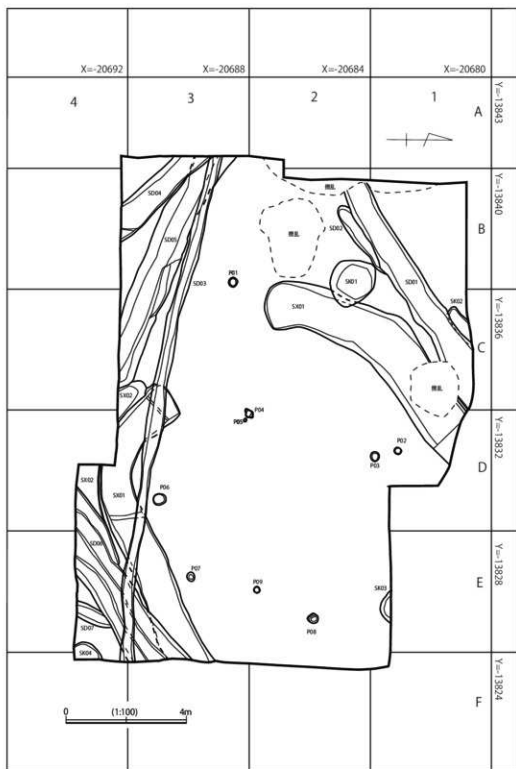
第6次発掘調査は、平成29年(2017)4月17日から5月31日までの期間で個人住宅建設に伴う緊急発掘調査として市教委が実施した。弥生時代後期後半から古墳時代前期初頭の周溝状遺構4基、土坑1基、平安時代から中世相当の溝状遺構5条、土坑21基、井戸跡4基を検出



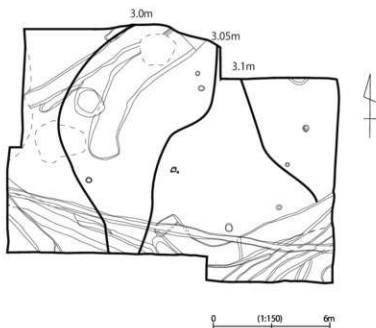
- I 第1次調査(1972) : 戸田市教育委員会調査(伊藤 1978)
- II 第2次調査(2007) : 戸田市教育委員会調査(岩井 2014)
- III 第3次調査(2011) : 財団法人埼玉県埋蔵文化財調査事業団調査(赤熊 2015)
- IV 第4次調査(2011～2012): 財団法人埼玉県埋蔵文化財調査事業団調査(岩井 2015)
- V 第5次調査(2016) : 戸田市教育委員会調査(長澤 2018)
- VI 第6次調査(2017) : 戸田市教育委員会調査(吉田 2019)
- VII 第7次調査(2019) : 戸田市教育委員会調査(今井・辻2020)
- VIII 第8次調査(2020) : 戸田市教育委員会調査(今井・諸星2020)
- IX 第9次調査(2021) : 戸田市教育委員会調査(今井・内田2021)
- X 第10次調査(2021) : 戸田市教育委員会調査(今井・黒済・林2021)
- XI 第11次調査(2021) : 戸田市教育委員会調査(本調査)

第4図 前谷遺跡調査区位置図





第5図 調査区全体図



第6図 調査区等高線図

した。出土遺物は、弥生時代後期後半から古墳時代前期初頭の土師器、平安時代の須恵器、ロクロ土師器、中近世の陶器片が出土した。

第7次発掘調査は、令和元年（2019）12月2日から12月20日までの期間で個人住宅建設に伴う緊急発掘調査として市教委が実施した。検出した遺構は、平安時代から中世までの畝状遺構17条、区画溝3条、土坑26基、その他時期不明のビット23基を検出した。出土遺物は、古墳時代前期の土師器、平安時代の土師器、須恵器、ロクロ土師器が出土した。このうち畝状遺構は平安時代の畑作遺構として戸田市内では初めて確認された。

第8次発掘調査は、令和2年（2020）5月8日から6月12日までの期間で共同住宅建設に伴う緊急発掘調査として市教委が実施した。検出した遺構は、平安時代の柵列跡1基、溝状遺構1条、井戸跡1基、土坑2基、ビット4基、中世の溝1条、土坑4基、近世の土坑6基、ビット12基、時期不明の性格不明遺構1条、ビット42基を検出した。出土遺物は、弥生土器、古墳時代前期の土師器、平安時代の土師器、須恵器、ロクロ土師器、陶器、砥石が出土した。

第9次発掘調査は、令和3年（2021）1月13日から2月12日までの期間で共同住宅建設に伴う緊急発掘調査として市教委が実施した。検出した遺構は、弥生時代の周溝状遺構1基、ビット1基、奈良・平安時代の溝状遺構3条、時期不明の溝状遺構6条、土坑5基、ビット4基を検出した。出土遺物は、弥生土器、古墳時代前期の土師器、平安時代の土師器、須恵器、土師質土器、陶器が出土した。周溝状遺構は、残存状況のいい壺、高坏等が多く出土しており、方形周溝墓の可能性が高い。

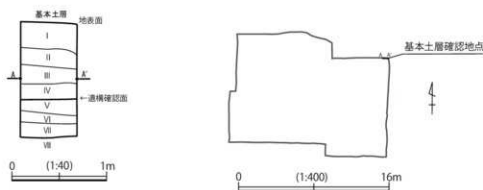
第10次発掘調査は、令和3年（2021）1月12日から2月12日までの期間で共同住宅建設・店舗建設に伴う緊急発掘調査として市教委が実施した。検出した遺構は、弥生時代後期後半から古墳時代前期の溝状遺構8条、土坑7基、平安時代から中世までの溝状遺構6条、井戸跡1基、土坑11基、近世の井戸跡1基、土坑9基である。出土遺物は、弥生土器、古墳時代前期の土師器、平安時代の土師器、須恵器、丸柄、陶磁器、近世土器、銭貨が出土した。特に丸柄は市内で初めて確認されたもので、平安時代の様相を知る上で貴重な成果である。

本調査は第11次発掘調査となる。令和3年（2021）7月12日から8月25日までの期間で個人住宅建設に伴う緊急発掘調査として市教委が実施した。検出した遺構は、弥生時代後期後半から古墳時代前期の周溝状遺構2基、溝状遺構6条、土坑4基、平安時代から中世の溝状遺構1条、時期不明のピット9基を検出した。遺物は弥生時代後期から古墳時代前期の土師器、古墳時代の形象埴輪片、平安時代の須恵器、近世の陶磁器が出土した。

## 第4節 基本土層

基本土層は、E・F-1グリッドで観察した（第7図・図版5-8）。地表面の標高は概ね3.8m前後である。表土層から深さ1.2m下までの堆積層をⅦ層に細分した。

I層は表土層である。現代の攪乱の影響を受けている。II層とIII層は砂質の灰褐色土である。しまりやや強く、粘性はない。III層は、調査区内では部分的にしか確認されていない。II・III層ともに近世以降の耕作土層とみられる。IV層は黒褐色土層で、粘性・しまり共にあり遺構覆土に近似する。調査区北西側で厚く堆積しているため、一部の場所で2層に分けている。V層は黄橙色シルトである。しまり強く、粘性が弱い。IV層を多く含む。本層が遺構確認面であり、標高は概ね3.0mから3.1mを測る。東から西へ緩やかに傾斜しており、顕著な地形の起伏はみられない。第VI層・Ⅶ層は黄橙色シルト層で、しまり・粘性ともに強く、酸化鉄を含む。酸化鉄の量と土色によって2層に分けた。Ⅶ層は、灰白色の砂質シルト層で、溝状遺構などは、大体この層まで掘りこまれている。土層中に草・萱などの植物痕が顕著に確認できるため静水的环境下で堆積したものと考えられる。



### 基本土層 土層説明

#### A-A'

- I 表土
- II 75YR5/2 灰褐色土 しまりやや強い 粘性なし 砂少量含む 近世以降の耕作土
- III 75YR6/2 灰褐色土 しまりやや強い 粘性なし 近世以降の耕作土
- IV 10YR3/2 黒褐色土 しまりやや強い 粘性あり 白色粒子少量 V層少量含む  
遺構覆土に近似する。調査区北西側では厚く堆積し、色調のより高い層を2層としている
- V 10YR7/4 近い黄橙色シルト しまり強い 粘性弱い IV層多量を含む  
一部の範囲では堆積層の上面に酸化鉄が溜まる 遺構確認面
- VI 10YR6/4 近い黄橙色シルト しまり強い 粘性やや強い 酸化鉄多量含む
- VII 75YR7/4 近い黄橙色シルト しまり強い 粘性強い 酸化鉄少量含む
- VIII 10YR7/1 灰白色砂質シルト しまり強い 粘性強い 砂少量含む

第7図 基本土層図

## 第3章 検出された遺構と遺物

### 第1節 弥生時代後期後半から古墳時代前期の遺構と遺物

#### 1 周溝状遺構

##### 第1号周溝状遺構—SX01

遺構（第8・9図 図版2-2~7、3-3、4-8）

位置：B～F-1～4グリッド。重複関係：SD03・06及びSK01に切られ、SX02を切る。平面形・規模：南西側を開口部とし、北溝の北端と南溝の東端は調査区外に伸びている。北溝は、長さ8.1m、上端幅が1.58～1.80m、下端幅1.20～1.40m。南溝は、長さ9.7m、上端幅が1.18～1.38m、下端幅0.95～1.08m、確認面からの深さはそれぞれ0.44～0.60mである。断面形状は、逆台形状である。主軸方位：N-65°-E。覆土：5箇所覆土を観察し、12層に分層した。北西コーナー部分では最下端の11層は粘性の強い黒色粘土であり、その上の3・4・9層は黄褐色土を主体とし斜めに堆積しているため、人為的な埋め戻し層とみられ、溝を再構築したと考えられる。

遺物（第10・11図、第2表、図版2-8、3-1、6-1～11、7-12～14）

出土状況：本遺構からは、456点、4687.5gの遺物が出土した。土師器452点、4619.2g、須恵器2点、45.3g、石製品2点、23.0gである。この内14点を図化した。遺物は、北溝先端部の上層から中層にかけて多く出土した。また下層からは台付甕（8）などが出土しているのみで、ほとんど出土していない。この内壺底部（2）は内面が赤彩されているため、壺の破損後に赤彩用のパレットとして再利用したとみられる。

時期

出土遺物から、弥生時代後期後半から古墳時代前期と考えられる。

##### 第2号周溝状遺構—SX02

遺構（第12図 図版3-2、3）

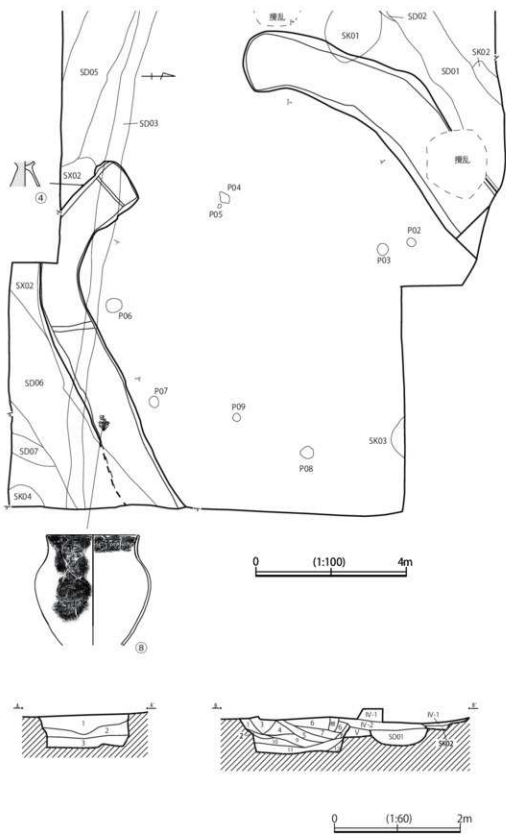
位置：C・D-3・4グリッド。重複関係：SX01、SD05・06に切られる。平面形・規模：南壁際に位置し一度調査区外に伸び、その後南壁から東に伸びる。確認された部分については、北西から東に向けて緩やかに弧を描いている。東側は、SX01とSD06に切られているため、全体の形状は不明である。確認されている長さは、北西側2.1mと東側1.2m、上端幅が0.64～0.72m、下端幅0.42～0.60m。確認面からの深さは0.30mである。断面形状は、逆台形である。主軸方位：N-65°-E。覆土：2箇所覆土を観察した。5層に分層し、自然堆積であると考えられる。

遺物（第13図、第3表、図版7-1）

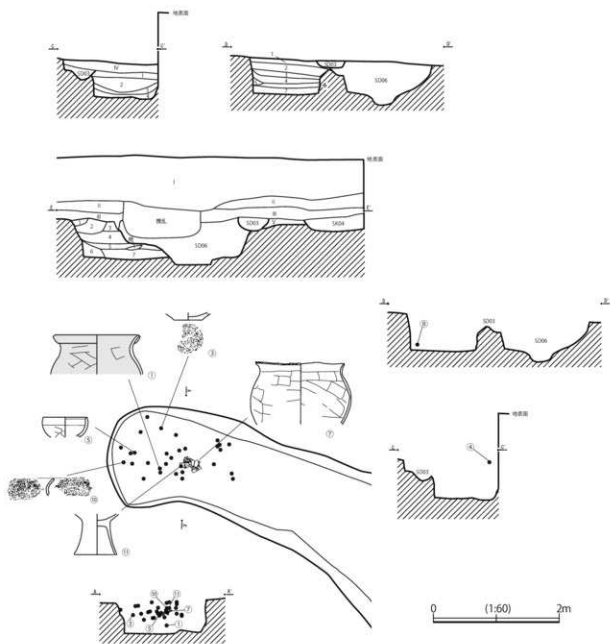
出土状況：本遺構からは、土師器1点、95.0gの遺物が出土し、図化した。

時期

切り合い関係及び出土遺物から、弥生時代後期後半から古墳時代前期と考えられる。



第8图 第1号周溝状遺構実測図・遺物出土状況図(SX01)(1)



SX01 土層説明

A-A

- 1 101913 黄褐色土 しまじり中強、粘性強、粗子砂
- 2 101912 黄褐色土 しまじり中強、粘性中強、礫化砂少量混在
- 3 101911 黄褐色土 しまじり強、粘性極めて強、地山少量混在

B-B

- 1 101912 黄褐色土 しまじり中強、粘性中強、地山少量混在
- 2 101913 黄褐色土 しまじり強、粘性中強
- 3 101914 土上・黄褐色土(少) しまじり中強、粘性なし、黄褐色土少量混在
- 4 101913 土上・黄褐色土(少) しまじり中強、粘性なし、黄褐色土少量混在
- 5 101914 黄褐色土 しまじり強、粘性中強、地山少量混在
- 6 101911 黄褐色土 しまじり中強、粘性なし、地山少量混在
- 7 101911 黄褐色土 しまじり中強、粘性なし、礫化砂少量と地山少量混在
- 8 101914 黄褐色土 しまじり強、粘性中強、地山少量混在
- 9 101913 土上・黄褐色土(少) しまじり中強、粘性なし、黄褐色土70%と少量混在
- 10 101911 黄褐色土 しまじり強、粘性極めて強、地山少量混在
- 11 101911 黄褐色土 しまじり強、粘性極めて強、地山少量混在
- 12 101911 黄褐色土 しまじり強、粘性強、粘性の少ない砂と地山少量混在

C-C

- 1 101912 黄褐色土 しまじり中強、粘性なし、地山少量混在、粗子砂
- 2 101912 黄褐色土 しまじり中強、粘性強、地山少量混在
- 3 101913 黄褐色土 しまじり中強、粘性強、礫化砂中量と地山少量混在
- 4 101911 黄褐色土 しまじり強、粘性強、地山少量混在

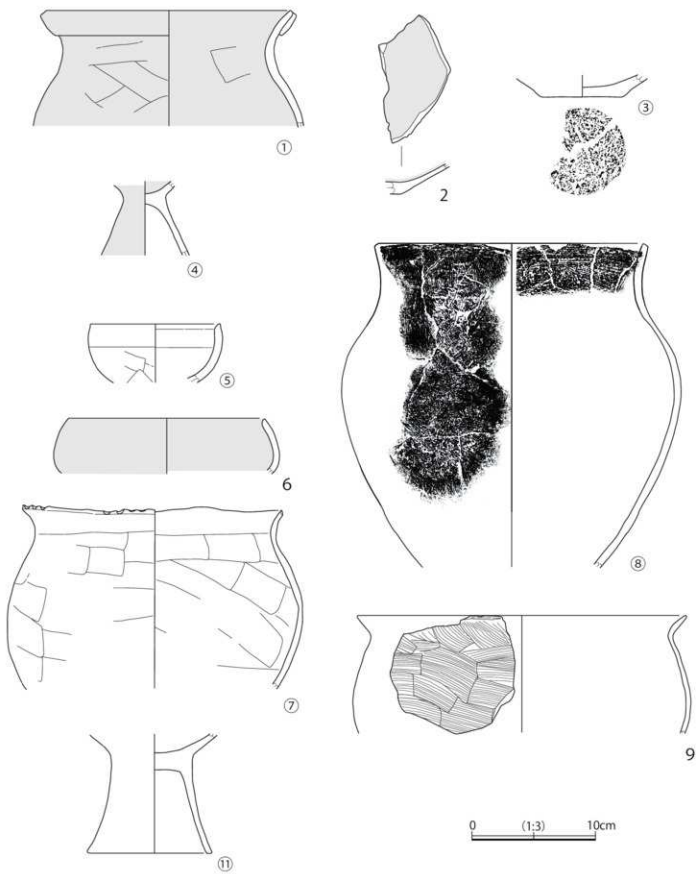
D-D

- 1 101914 黄褐色土 しまじり中強、粘性中強、地山少量混在
- 2 101913 黄褐色土 しまじり中強、粘性中強、地山少量混在
- 3 101914 黄褐色土 しまじり中強、粘性中強、地山少量混在
- 4 101914 黄褐色土 しまじり中強、粘性強、礫化砂少量と地山少量混在
- 5 101911 黄褐色土 しまじり強、粘性強、礫化砂少量と地山少量混在
- 6 101911 黄褐色土 しまじり強、粘性強、礫化砂少量と地山少量混在
- 7 101911 黄褐色土 しまじり強、粘性極めて強、礫化砂少量と地山少量混在

E-E

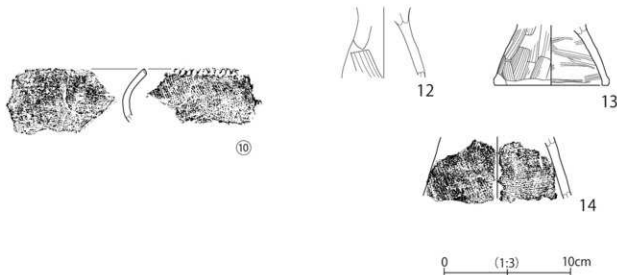
- 1 101913 黄褐色土 しまじり中強、粘性中強、礫化砂少量混在
- 2 101912 黄褐色土 しまじり中強、粘性強、褐色粗子砂少量混在
- 3 101911 黄褐色土 しまじり中強、粘性中強
- 4 101914 黄褐色土 しまじり中強、粘性強、礫化砂少量と地山少量混在
- 5 101912 黄褐色土 しまじり強、粘性中強、礫化砂中量と地山少量混在
- 6 101911 黄褐色土 しまじり強、粘性強、礫化砂少量と地山少量混在
- 7 101911 黄褐色土 しまじり強、粘性極めて強、礫化砂少量と地山少量混在

第9図 第1号周溝状遺構実測図・遺物出土状況図(SX01)(2)



第 10 图 第 1 号周沟状遗构出土遗物实测图 (SX01) (1)

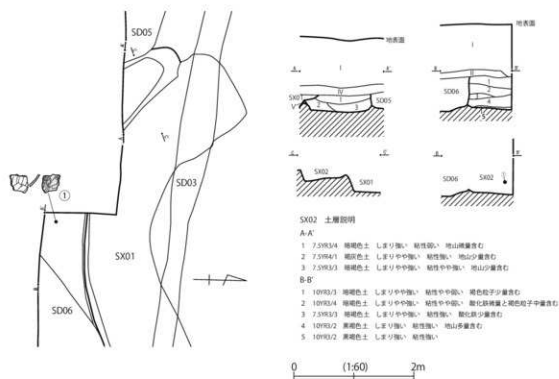




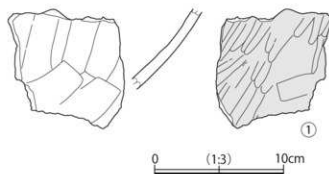
第 11 図 第 1 号周溝状遺構出土遺物実測図 (SX01) (2)

第 2 表 第 1 号周溝状遺構出土遺物観察表

検出番号	出土遺物	検出位置	部位	数量(個)	重量(g)	形状・技法の特徴	胎土	構成	色調	備考
10-1										
6-(SX01)-1	SX01	土層部	口縁～胴部	(19.6) (9.5)	142.8	外面 口縁部 縄ナゲ 胴部 →ツナゲ、赤筋 内面 口縁部縄ナゲ 胴部ナゲ(縦)、赤筋	φ1～2mm赤色粒少量 φ1mm砂中量	貝	外面 明褐色(T.5YR7/1) 内面 赤褐色(T.5YR5/2)	内外面風化、 断面に口縁
10-2										
6-(SX01)-2	SX01	土層部	底部	(2.2)	45.2	外面 土がキ 内面 ナゲ(縦)、赤筋	φ1mm砂少量	貝	外面 褐色(T.5YR5/1) 内面 褐色(T.5YR4/1)	断面長、赤筋 周の5センチ として測定
10-3										
6-(SX01)-3	SX01	土層部	底部	(1.8) (0.5)	86.9	外面 ナゲナ 内面 ナゲナ	φ1mm以上白色粒中量 φ2mm以上小粒中量	貝	外面 褐色(T.5YR5/3) 内面 明褐色(T.5YR5/2)	内外面風化 熱付着
10-4										
6-(SX01)-4	SX01	土層部	胴部	(5.7)	76.0	外面 土がキ(縦)赤筋 胴部ナゲ、赤筋 断面ナゲナ	φ1mm以下砂少量 φ1mm～2mm小粒少量	不貝	外面 土色～褐色(T.5YR5/3) 内面 褐色(T.5YR4/2)	内外面風化
10-5										
6-(SX01)-5	SX01	土層部	口縁～胴部	(10.6) (4.8)	25.0	外面 口縁部縄ナゲ 胴部ヘアナゲ 内面 ナゲナ	φ1mm～3mm白色粒多量 φ1mm小粒少量	不貝	外面 褐色(T.5YR5/3) 内面 褐色(T.5YR4/1)	内面酸化 多量に付着
10-6										
6-(SX01)-6	SX01	土層部	口縁～胴部	(16.0) (4.5)	35.0	外面 ヘウナゲ(縦)→ヒゲキキ、赤筋 内面 ヘウナゲ(縦)、赤筋	φ1mm以上白色粒中4量 φ1mm以下砂少	貝	外面 浅黄褐色(T.5YR6/6) 内面 浅黄褐色(T.5YR6/3)	内外面風化
10-7										
6-(SX01)-7	SX01	土層部	口縁～胴部	21.1 (15.0)	695.0	外面 口縁部縄ナゲ 胴部ツナゲ(縦) 内面 ヘウナゲ(縦)	φ1mm以下白色粒少量 φ2mm以上小粒中少量 φ1mm以下砂中量	貝	外面 灰黄褐色(T.5YR7/2) 内面 褐色(T.5YR5/1)	NO.11530- 1、酸化熱付 着
10-8										
6-(SX01)-8	SX01	土層部	口縁～胴部	(22.2) (26.3)	790.0	外面 ハケメ(縦)→ハケメ(縦) 内面 ハケメ(縦)→ハケメ(縦) 胴部ヘアナゲ	φ1mm以下白色粒少量 φ2mm以上小粒中少量 φ1mm以下砂中量	不貝	外面 土色～褐色(T.5YR7/4) 内面 明褐色(T.5YR7/1)	内外面風化
10-9										
6-(SX01)-9	SX01	土層部	口縁～胴部	(19.4) (9.6)	70.1	外面 口縁部縄ナゲ→ハケメ(縦) 内面 口縁部縄ナゲ→ハケメ(縦) 胴部ヘアナゲ(縦)	φ1mm砂少量 φ2mm小粒少量	貝	外面 明赤褐色(T.5YR5/6) 内面 褐色(T.5YR6/6)	
11-10										
6-(SX01)-10	SX01	土層部	口縁	(4.2)	34.0	外面 口縁部用土、ハケメ(縦) 内面 ハケメ(縦)→ヘアナゲ(縦)	φ1mm白色粒中量 φ2mm以上小粒少量	貝	外面 褐色(T.5YR5/4) 内面 褐色(T.5YR4/1)	
10-11										
6-(SX01)-11	SX01	土層部	口縁～胴部	(9.7) (18.2)	273.1	外面 ヘウナゲ(縦) 内面 ヘウナゲ(縦)	φ1mm以下白色粒少量 φ2mm以上小粒中少量 φ1mm以下砂中量	貝	外面 明褐色(T.5YR7/2) 内面 土色～褐色(T.5YR7/4)	NO.7510-1
11-12										
7-(SX01)-12	SX01	土層部	口縁～胴部	(5.6)	35.0	外面 ハケメ→胴ナゲ(縦) 内面 ナゲナ	φ1mm砂少量 φ2mm以上小粒少量	貝	外面 土色～褐色(T.5YR6/4) 内面 褐色(T.5YR6/6)	
11-13										
7-(SX01)-13	SX01	土層部	口縁～胴部	(4.8) (9.9)	70.0	外面 ハケ(縦) 内面 ハケ(縦)→ナゲ(縦)	φ1mm砂少量 φ2mm以上粒少量	貝	外面 土色～赤褐色(T.5YR5/4) 内面 褐色(T.5YR7/2)	
11-14										
7-(SX01)-14	SX01	土層部	口縁～胴部	(5.6)	25.0	外面 ハケ(縦) 内面 ハケ(縦)	φ1mm白色粒中量 φ1mm砂少量 φ2mm以上小粒少量	貝	外面 土色～褐色(T.5YR7/4) 内面 褐色(T.5YR6/6)	



第 12 図 第 2 号周溝状遺構実測図・遺物出土状況図 (SX02)



第 13 図 第 2 号周溝状遺構出土遺物実測図 (SX02)

第 3 表 第 2 号周溝状遺構出土遺物観察表

探検番号 収獲番号	出土 遺構	種別 器種	部位	寸法(cm) 口径 器高 底径	重量(g)	成形・技法の特徴	胎土	構成	色調	備考
13-1	SX02	土師器 壺	胴部	(6.0) —	95.0	外面 →→→(縦) →→→(横) →→→(底) →→→(口)	φ 1mm以下白色粘土少量 φ 1~2mm褐色粘土少量 φ 1mm小礫少量	白	外面 二色(横(7.59K3/3))	
7-SX02-1						内面 →(フナヅ) (横)			内面 褐色(7.59K4/1)	

## 2 溝状遺構

### 第1号溝状遺構—SD01

遺構（第14図 図版3-4~6）

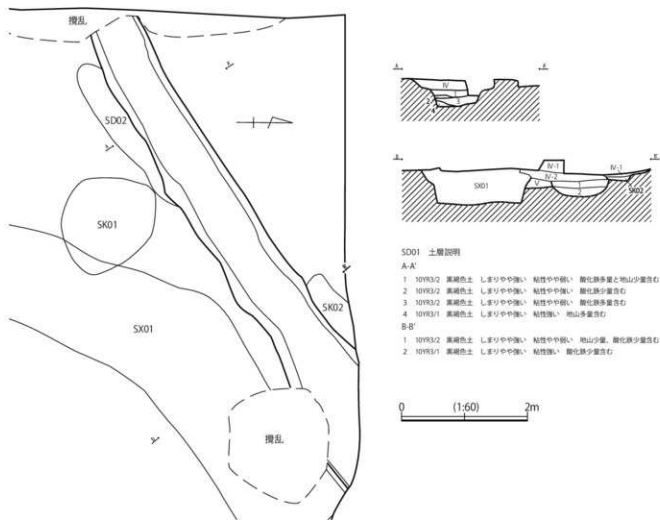
位置：B・C-1・2グリッド。重複関係：SK02に切られ、SD02を切る。平面形・規模：調査区の北壁から南西に伸び西壁に至る。長7.5m、上端幅が0.92~1.10m、下端幅0.60~0.80m。確認面からの深さは0.45~0.79mである。断面形状は、逆台形である。主軸方位：N-50°-E。覆土：2箇所で覆土を観察した。4層に分層し、自然堆積であると考えられる。

遺物（第15図、第4表、図版7-1）

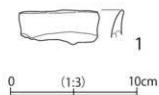
出土状況：本遺構からは、土師器9点、76.2gが出土した。内1点を図化した。

時期

出土遺物から、弥生時代後期後半から古墳時代前期と考えられる。



第14図 第1号溝状遺構実測図 (SD01)



第15図 第1号溝状遺構出土遺物実測図 (SD01)

第4表 第1号溝状遺構出土遺物観察表

標記番号	出土遺構	種別	部位	法量(cm) 口徑 底径 高さ	重量(g)	成形・技法の特徴	軸上	焼成	色調	備考
15-1	5001	土師器	口縁部	— (2.0)	15.1	外面 ナズ(縞)	約1mm許少量	普通	外面 肌黄褐色(10YR5/8)	
内面 ナズ(縞)						内面 紅褐色(10YR5/3)				

### 第2号溝状遺構—SD02

遺構 (第16図 図版3-7)

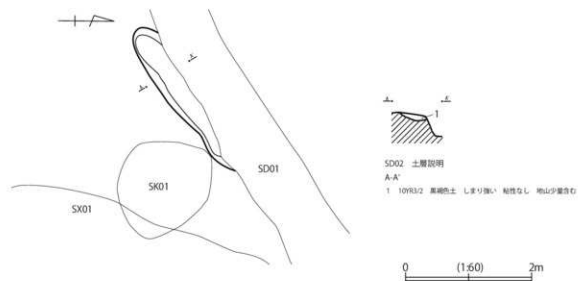
位置：B-1・2グリッド。重複関係：SD01に切られる。平面形・規模：溝北側はSD01に切られているため形状は不明、北東から南西に伸びている。確認されている規模は、長2.0m、上端幅が0.40～0.42m、下端幅0.30～0.36m。確認面からの深さは0.11～0.14mである。断面形状は、皿形の可能性がある。主軸方位：N-58°-E。覆土：1箇所覆土を観察した。1層に分層し、自然堆積であると考えられる。

#### 遺物

出土状況：本遺構からは、遺物は出土していない。

#### 時期

切り合い関係から、弥生時代後期後半から古墳時代前期と考えられる。



第16図 第2号溝状遺構実測図 (SD02)

#### 第4号溝状遺構—SD04

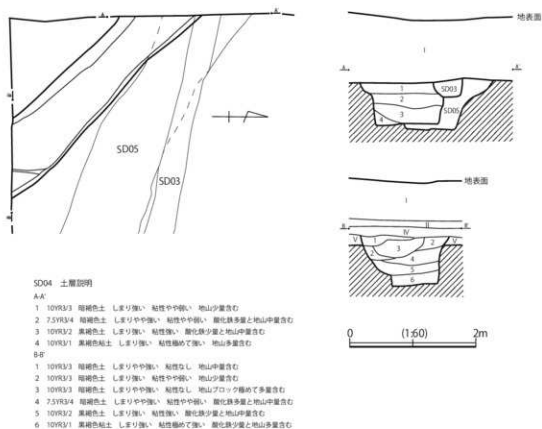
遺構（第17図 図版4-3・4）

位置：A・B-3・4グリッド。重複関係：SD03に切られ、SD05を切る。平面形・規模：調査区の南壁から北西に伸び西壁に至る。長3.5m、上端幅が0.90～0.94m、下端幅0.55～0.77m。確認面からの深さは0.57～0.69mで、北西に向かって傾斜している。断面形状は、逆台形である。主軸方位：N-42°-W。覆土：2箇所で覆土を観察した。6層に分層し、自然堆積であると考えられる。遺物

出土状況：本遺構からは、14点、183.1gの遺物が出土した。土師器13点、177.6g、陶磁器1点、5.5gである。陶磁器は流れ込みと思われる。全て破片資料で図示出来なかった。

時期

遺構形状及び出土遺物から、弥生時代後期後半から古墳時代前期と考えられる。



第17図 第4号溝状遺構実測図（SD04）

#### 第5号溝状遺構—SD05

遺構（第18図 図版4-5・6）

位置：A～C-3・4グリッド。重複関係：SD03・04に切られ、SX02を切る。平面形・規模：調査区南壁から北西に伸び、西壁に至る。確認されている規模は、長7.5m、上端幅が0.84～1.13m、下端幅0.36～0.48m。確認面からの深さは0.54～0.78mである。断面形状は、逆台形である。

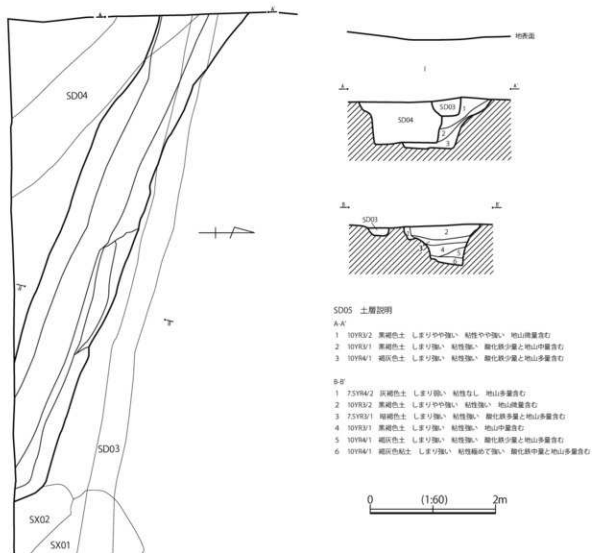
主軸方位：N - 58° - W。覆土：2箇所で覆土を観察した。6層に分層し、自然堆積であると考えられる。

#### 遺物

出土状況：本遺構からは、遺物は出土していない。

#### 時期

切り合い関係から、弥生時代後期後半から古墳時代前期と考えられる。



第18図 第5号溝状遺構実測図 (SD05)

#### 第6号溝状遺構—SD06

遺構 (第19図 図版4-7・8、5-1)

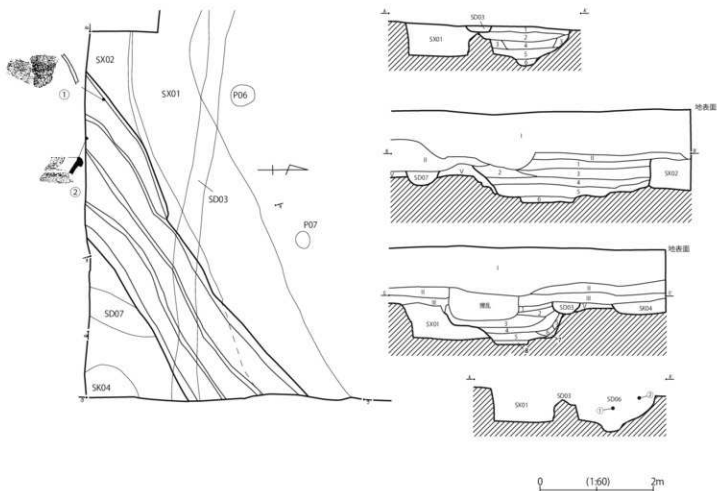
位置：D ~ F - 3・4グリッド。重複関係：SD03に切られ、SX01・02、SD07を切る。平面形・規模：調査区の南壁から北東に伸び東壁に至る。長5.5m、上端幅が0.90 ~ 1.30m、下端幅0.58 ~ 0.86m。確認面からの深さは0.45 ~ 0.79mである。断面形状は、逆台形であり、中央に段差がつく。主軸方位：

N-60°-E. 覆土：3箇所で覆土を観察した。8層に分層し、自然堆積であると考えられる。  
遺物（第20図、第5表、図版7-1・2）

出土状況：本遺構からは、86点、970.1gの遺物が出土した。土師器84点、909.7g、須恵器1点、57.5g、陶磁器1点、2.9gである。のうち土師器1点、須恵器1点を図化した。須恵器は遺構上層より出土している。

時期

出土遺物から、弥生時代後期後半から古墳時代前期と考えられる。



SD06 土層説明

A-A'

- 1 75YR3/4 暗褐色土 しまりや中強い 粘性弱い 褐色粒子少量と地山多量含む
- 2 75YR3/4 暗褐色土 しまりや強い 粘性弱い 酸化鉄少量と地山少量含む
- 3 10YR4/7 暗灰色土 しまりや中強い 粘性中や強い 褐色粒子多量含む
- 4 75YR3/3 暗褐色土 しまりや中強い 粘性強い 酸化鉄中量と地山中量含む
- 5 10YR3/1 黒褐色土 しまり強い 粘性極めて強い 地山多量含む
- 6 10YR3/1 黒褐色土 しまり強い 粘性極めて強い

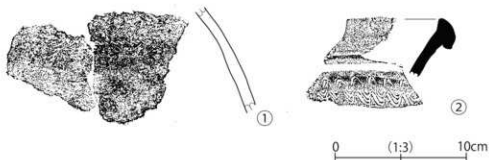
B-B'

- 1 75YR3/4 暗褐色土 しまりや中強い 粘性中や強い 褐色粒子少量と酸化鉄少量、地山多量含む
- 2 75YR3/4 暗褐色土 しまりや中強い 粘性弱い
- 3 10YR3/3 暗褐色土 しまりや中強い 粘性中や強い 褐色粒子多量含む
- 4 75YR3/4 暗褐色土 しまり強い 粘性強い 酸化鉄多量含む
- 5 10YR2/2 黒褐色土 しまり強い 粘性強い 地山多量含む
- 6 10YR3/1 黒褐色土 しまり強い 粘性極めて強い 地山少量含む

C-C'

- 1 75YR3/4 暗褐色土 しまりや中強い 粘性なし 褐色粒子少量含む
- 2 75YR3/4 暗褐色土 しまりや中強い 酸化鉄少量含む
- 3 10YR3/3 暗褐色土 しまりや中強い 粘性中や強い 褐色粒子多量含む
- 4 10YR2/2 暗褐色土 しまりや中強い 粘性中や強い 酸化鉄中量と褐色粒子中量含む
- 5 10YR3/1 黒褐色土 しまり強い 粘性強い 地山多量含む
- 6 10YR4/1 暗灰色土 しまり強い 粘性強い 地山中量含む
- 7 10YR5/2 灰黒褐色土 しまりや中強い 粘性強い 地山多量含む
- 8 10YR3/1 黒褐色土 しまり強い 粘性極めて強い

第19図 第6号溝状遺構実測図・遺物出土状況図 (SD06)



第20図 第6号溝状遺構出土遺物実測図 (SD06)

第5表 第6号溝状遺構出土遺物観察表

検出番号	出土 層位	種類 器種	部位	法量(cm) 口徑 器高 底径	重量(g)	成形・技法の特徴	粘土	構成	色調	備考
20-1	SD06	土師器 壺	胴部	-	103.3	外面 1.6cm文字状紅線文で区画、胴部に片生(線)、点彩	粘土	真	外面 明褐色(7.5YR7/1)	
7-(SD06)-1						内面 ヤマ(横)			内面 褐色(7.5YR6/1)	
20-2	SD06	土師器 壺	口縁 胴部	-	37.5	外面 口内整形、胴部には5枚状文印	粘土	真	外面 黄灰(2.5Y6/1)	
7-(SD06)-2						内面 ココロ整形			内面 黄灰(2.5Y6/1)	

### 第7号溝状遺構—SD07

#### 遺構 (第21図 図版5-2)

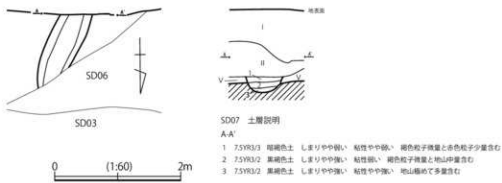
位置：E-4グリッド。重複関係：SD06に切られる。平面形・規模：調査区南壁から北東に進み、SD06に切られる。長1.1m、上端幅が0.48～0.54m、下端幅0.25～0.29m。確認面からの深さは0.15～0.20mである。断面形状は、半円形。主軸方位：N-25°-E。覆土：1箇所で覆土を観察した。3層に分層し、自然堆積であると考えられる。

#### 遺物

出土状況：本遺構からは、遺物は出土していない。

#### 時期

切り合い関係と覆土から、弥生時代後期後半から古墳時代前期と考えられる。



第21図 第7号溝状遺構実測図 (SD07)



### 3 土坑

#### 第1号土坑—SK01

遺構（第22図 図版5-3、4）

位置：B・C-1・2グリッド。重複関係：SX01を切る。平面形・規模：円形を呈する。長軸1.59m、短軸1.41m、深さは0.31mである。断面形状は、浅い皿状である。主軸方位：N-60°-W。覆土：1箇所覆土を観察した。4層に分層し、自然堆積であると考えられる。

遺物（第23図、第6表、図版7-1）

出土状況：本遺構からは、3点、55.6gが出土している。全て土師器で、この内1点を図化した。

時期

出土遺物から、弥生時代後期後半から古墳時代前期と考えられる。

#### 第2号土坑—SK02

遺構（第22図 図版3-5、6）

位置：C-1グリッド。重複関係：SD01を切る。平面形・規模：調査区北側に伸びているため全景は不明であるが、検出している形状では方形を呈する。確認されている長軸1.02m、短軸0.42m、深さは0.06mである。断面形状は、浅い皿状である。主軸方位：N-45°-E。覆土：1箇所覆土を観察した。1層に分層し、自然堆積であると考えられる。

遺物

出土状況：本遺構からは、遺物は出土していない。

時期

遺構覆土から、弥生時代後期後半から古墳時代前期と考えられる。

#### 第3号土坑—SK03

遺構（第22図 図版5-5）

位置：E-1グリッド。重複関係：切り合い関係なし。平面形・規模：調査区北壁際で検出したため、全体の形状は不明であるが、円形を呈するとみられる。長軸1.08m、短軸0.36m、深さは0.18mである。断面形状は、浅い皿状である。主軸方位：不明。覆土：1箇所覆土を観察した。2層に分層し、自然堆積であると考えられる。

遺物（第23図、第6表、図版7-2）

出土状況：本遺構からは、15点、186.5gが出土している。土師器14点、176.9g、須恵器1点、9.6gである。この内土師器1点を図化した。

時期

出土遺物から、弥生時代後期後半から古墳時代前期と考えられる。

#### 第4号土坑—SK04

遺構（第22図 図版5-6）

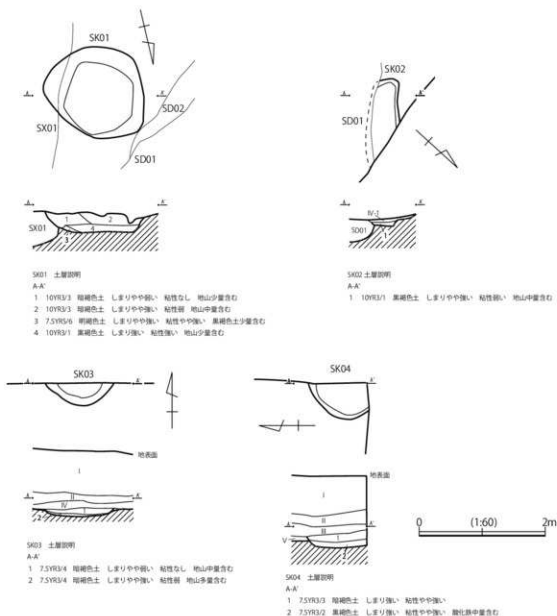
位置：E・F-4 グリッド。重複関係：切り合い関係なし。平面形・規模：調査区南東壁際で検出したため、全体の形状は不明であるが、円形を呈するとみられる。検出した規模は長軸 0.90m、短軸 0.54m、深さは 0.22m である。断面形状は、浅い皿状である。主軸方位：不明。覆土：1箇所覆土を観察した。2層に分層し、自然堆積であると考えられる。

#### 遺物

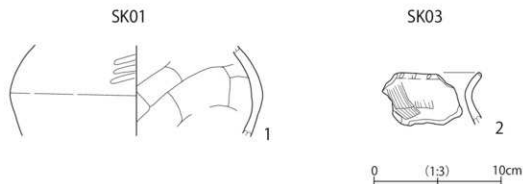
出土状況：本遺構からは、遺物は出土していない。

#### 時期

遺構覆土から、弥生時代後期後半から古墳時代前期と考えられる。



第 22 図 第 1・2・3・4号土坑実測図 (SK01・02・03・04)



第23図 第1・3号土坑出土遺物実測図 (SK01・03)

第6表 第1・3号土坑出土遺物観察表

検出番号 図版番号	出土 遺物	種別 器種	部位	位置(cm) は 埋 没 深 度	重量(g)	成形・技法の特徴	胎土	構成	色調	備考	
23-1 7-0301-1	SK01	土師器 甕	胴部	-	(7.1)	102.8	外面	ヒガキ	外面	LS1-地(T. SY06/3)	
							内面	ナズ(横)	内面	LS1-地(T. SY06/4)	
23-2 7-0302-2	SK03	土師器 甕	口縁部	-	(4.1)	29.6	外面	口部加み針 口縁部→ナズ	外面	LS1-地(T. SY07/4)	
							内面	ナズ(横)	内面	相沢(T. SY06/1)	

## 第2節 平安時代から中世の遺構と遺物

### 1 溝状遺構

#### 第3号溝状遺構—SD03

遺構(第24図 図版3-8、4-1・2)

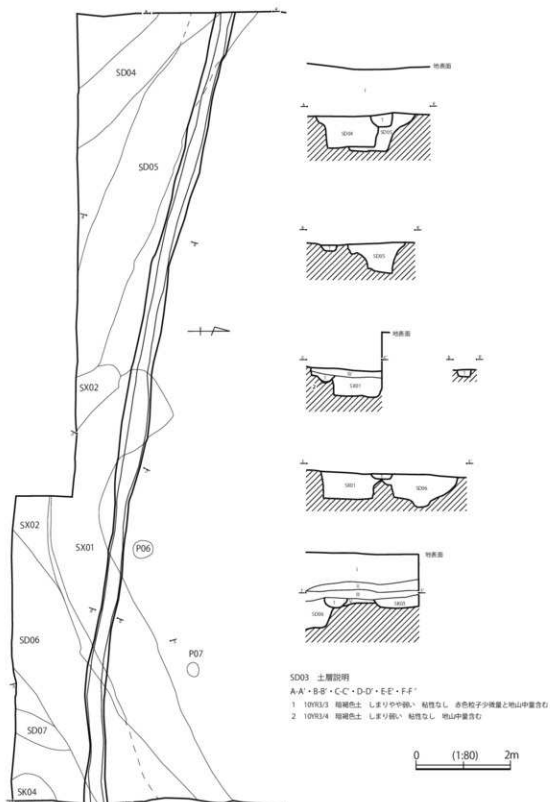
位置:A~F-3・4グリッド。重複関係: SX01、SD04・05・06を切る。平面形・規模:調査区の東壁からほぼ直線に伸び西壁に至る。長17.1m、上端幅が0.30~0.41m、下端幅0.20~0.31m。確認面からの深さは0.11~0.24mである。断面形状は、逆台形である。主軸方位:N-76°-W。覆土:6箇所覆土を観察した。2層に分層し、自然堆積であると考えられる。

遺物(第25図、第7表、図版7-1~3)

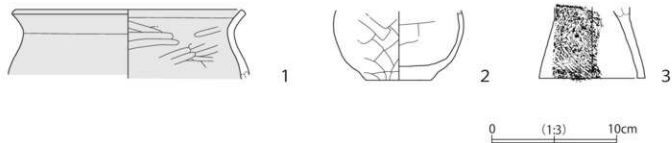
出土状況:本遺構からは、15点、152.8gの遺物が出土した。土師器11点、100.3g、須恵器2点、20.6g、石2点、31.9gである。内3点を図化した。いずれも弥生時代後半から古墳時代前期の土師器で、周囲からの流れ込みと考えられる。

時期

遺物は流れ込みが多く、時期を判断することは難しいが、土層と切り合い関係から平安時代から中世と考えられる。



第 24 図 第 3 号溝状遺構実測図 (SD03)



第25図 第3号溝状遺構出土遺物実測図 (SD03)

第7表 第3号溝状遺構出土遺物観察表

調査番号	出土遺物	遺物種類	部位	法量(μ) 口径 器高 底径	重量(g)	成形・技法の特徴	粘土	構成	色調		備考
25-1	SD03	土師器 甕	口縁部 へ縁部	(18.8) (5.3)	35.0	外面 ナズ(模)、ヒガキ(模)、赤影 内面 ナズ(模)、ヒガキ(模)、赤影	φ10cm以下白色粘土胎土	貝	外面 赤褐色(S108/20)		
7-SD03-1	SD03	土師器 鉢	底面	—	—	外面 ナズ(模)、ヒガキ(模)、赤影 内面 ナズ(模)	φ10cm以下白色粘土胎土 φ10cm以下砂胎土	貝	内面 赤褐色(S108/20)		
25-2	SD03	土師器 鉢	底面 へ縁部	(5.6) (5.2)	35.0	外面 ナズ(模) 内面 ナズ(模)	φ10cm以下白色粘土胎土 φ10cm以下砂胎土	赤土	外面 灰褐色(T.5Y86/2)		内面黒化
7-SD03-2	SD03	土師器 打付罎	脚部	(5.7) (8.6)	45.0	外面 ハケメ(模) 内面 ヘラナズ(模)	φ10cm以下白色粘土胎土 φ20cm以上小粒胎土 φ10cm以下砂胎土	貝	内面 陶灰(T.5Y84/1)		
25-3	SD03	土師器 打付罎	脚部	(5.7) (8.6)	45.0	外面 ハケメ(模) 内面 ヘラナズ(模)	φ10cm以下白色粘土胎土 φ20cm以上小粒胎土 φ10cm以下砂胎土	貝	外面 緑(L.5Y86/9)		
7-SD03-3	SD03	土師器 打付罎	脚部	(5.7) (8.6)	45.0	外面 ハケメ(模) 内面 ヘラナズ(模)	φ10cm以下白色粘土胎土 φ20cm以上小粒胎土 φ10cm以下砂胎土	貝	内面 土色・赤褐色(L.5Y84/4)		

### 第3節 その他の遺構と遺物

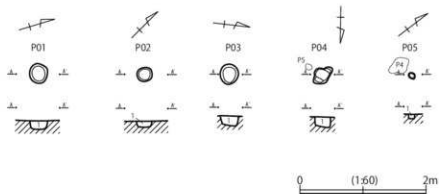
#### 1 ビット

遺構 (第26・27図 第8表)

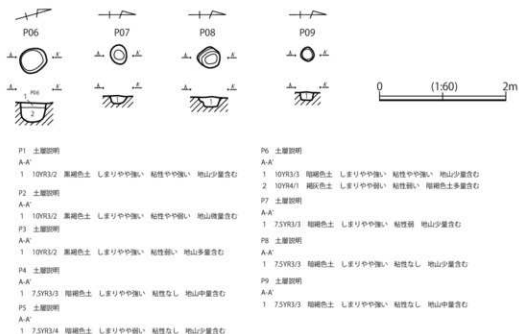
本調査では、全部で9基のビットを検出した。このうちSX01の内側ではP02からP09までを検出したが、規則性などは確認できなかった。計測値等は第8表に示した。

遺物 (第8表)

出土状況：ビット5から須恵器1点、0.7gの遺物が出土した。破片資料で図示できなかった。



第26図 第1～9号ビット実測図 (P01～09) (1)



第 27 図 第 1～9号ピット実測図 (P01～09) (2)

第 8 表 ピット計測表

遺構名	位置 (グリッド)	平面 形状	長軸長 (m)	短軸長 (m)	深さ (m)	出土遺物	備考
P01	B-3	円形	0.32	0.28	0.14	なし	
P02	D-1	円形	0.24	0.24	0.10	なし	
P03	D-1	円形	0.32	0.29	0.17	なし	
P04	C・D-2・3	楕円形	0.37	0.26	0.16	なし	
P05	D-3	円形	0.12	0.10	0.08	須恵器1点 0.7g	
P06	D-3	円形	0.42	0.39	0.31	なし	
P07	E-3	楕円形	0.31	0.25	0.13	なし	
P08	E-2	円形	0.35	0.41	0.16	なし	
P09	E-2	不整形	0.22	0.20	0.13	なし	

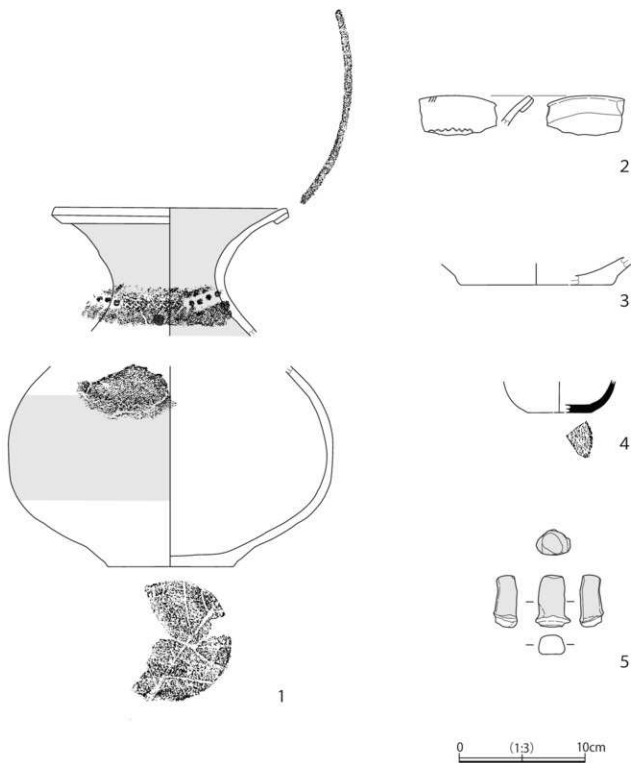
## 2 遺構外出土遺物

遺物 (第 28 図、第 9 表、図版 5-7、8-1~5)

本調査では、試掘調査時に出土した物を含め遺構外から 153 点、2040.4 g の遺物が出土した。土師器 124 点、1688.6 g、須恵器 19 点、254.2 g、石製品 2 点、46.6 g、陶磁器 5 点、24.3 g、その他不明遺物 3 点、26.7g である。

このうち 5 点を図化した。他のものは第 8 表に遺構出土遺物及び遺構外出土遺物の点数、重量を示した。壺型土器 (1) は、調査区北西壁際でまとまって出土した。胴部上半が欠落しているが、破

片資料から単節縄文を一条のZ字状結節文で区画した文様帯2段で構成されていると考えられ、2段とも円形朱文を配置している。形象埴輪（5）は、全体が赤彩されたもので、形象埴輪の一部とみられる。



第28図 遺構外出土遺物実測図

第9表 遺構外出土遺物観察表

探検番号 調査番号	出土 遺構	種別 器種	部位	位置(cm) 口縁部 口縁部 高さ 底径	重量(g)	成形・技法の特徴	胎土	焼成	色調	備考
29-1	遺構外	土師器 壺	口縁部・ 腹面・底 面	(19.0) (9.9) (16.0)	300.0	外面 口縁部は編文、口縁部はナ ゲ〜ナゲ(縦・横)、腹面 は編文を2字交差部まで延 びる文様体(点列、点列中後 期には内折突文、1段折文様 体上部に4割1単位の内折浮 突文(点列)、文様部以外市 部	δ1mm以下白色粒子微量 δ1mm〜2mm小礫微量	普通	外面 紅・黄(7.5V16/4)	内面 橙(7.5V16/6)
						内面 口縁部は編文、 口縁部はナゲ				
29-2	遺構外	土師器 壺	口縁部	— (4.3)	29.0	外面 口縁部は編文 口縁部はナゲ	δ1mm以下微量	普通	外面 浅黄橙(10V16/4)	内面 浅黄橙(10V16/2)
29-3	遺構外	土師器 壺	口縁部	— (1.7)	30.3	外面 ナゲナゲ	δ1mm〜2mm小礫微量	普通	外面 明黄橙(10V16/6)	内面 明黄橙(10V16/6)
29-4	遺構外	須恵器 鉢	腹面・ 底面	— (2.6) (5.0)	14.8	外面 口縁部は編文、 底面は点列(点列・ナゲ) 内面 ナゲナゲ	δ1mm以下白色粒状物微中 量 δ2mm以下微量	普通	外面 黄(2.5V5/1)	内面 黄(2.5V5/1)
29-5	遺構外	土製土 形象埴輪	形象埴 輪の一部	— 1.5	25.0	外面 ナゲナゲ、赤彩	δ1mm微量	普通	外面 紅・黄(7.5V16/4)	内面 —

第10表 遺物出土点数・重量一覧

遺構	土師器		須恵器		石製品		陶磁器		その他		合計		
	点数	重量 (g)	点数	重量 (g)	点数	重量 (g)	点数	重量 (g)	点数	重量 (g)	種別	重量 (g)	
SX01	452	4619.2	2	45.3	2	23.0	0	0.0	0	0.0		456	4687.5
SX02	1	95.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0		1	95.0
SD01	9	76.2	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0		9	76.2
SD03	11	100.3	2	20.6	0	0.0	0	0.0	2	31.9	石	15	152.8
SD04	13	177.6	0	0.0	0	0.0	1	5.5	0	0.0		14	183.1
SD06	84	909.7	1	57.5	0	0.0	1	2.9	0	0.0		86	970.1
SK01	3	55.6	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0		3	55.6
SK03	14	176.9	1	9.6	0	0.0	0	0.0	0	0.0		15	186.5
Pit	0	0.0	1	0.7	0	0.0	0	0.0	0	0.0		1	0.7
遺構外	111	1631.3	17	241.9	2	46.6	4	21.3	3	26.7	形象埴輪、金属	137	1967.8
試掘	13	57.3	2	12.3	0	0.0	1	3.0	0	0.0		16	72.6
合計	711	7899.1	26	387.9	4	69.6	7	32.7	5	58.6		753	8447.9



## 第4章 まとめ

今回の前谷遺跡第11次調査では、弥生時代後期後半から古墳時代前期の周溝状遺構2基、溝状遺構6条、土坑4基、平安時代から中世相当の溝状遺構1条、時期不明のピット9基を検出した。以下に各時代の様相について述べる。

### 1 弥生時代後期後半から古墳時代前期の遺構と遺物

本次の調査では、2基の周溝状遺構を検出した。SX01は、調査区中央に位置し北東側は調査区外に伸びるため全体の形状は不明であるが、開口部を挟んで北溝と南溝を検出した。平面形状は、南西側に開口部をもつ隅丸方形形状とみられ、南溝に比べ北溝はやや不整形である。周溝内には、PO2～PO9及びSK03を検出したものの規則的な配置は認められない。

遺物は、北溝先端部分の遺構覆土上層から中層にかけて多く出土し、他の地点は少ない。特に最下層の黒色粘土層からは甕形土器が出土した以外は、遺物はほとんどみられなかった。多くが甕形土器であり、完形のものはないが一部は口縁から胴部まで復元することができた。

北溝コーナー部分は、黒色粘土層が堆積した後、黄褐色土を主体とする層が斜めに堆積されているため、人為的に溝を整備した可能性が高い。下層からの遺物が少ない状況を併せて考えると、SX01の溝が3分の1ほど埋没した後、溝の一部を整備する形で再利用したとみられる。また、遺構が完全に廃絶した後に北溝先端部分を中心に土器の廃棄が行われ、この内略完形の甕形土器などは、廃絶儀礼に関連する可能性がある。このように、SX01の利用形態として構築から廃絶まで以上のような流れを想定することが可能である。

SX02は、部分的な検出であり、東側はSX01とSD06に切られている。全体の形状は不明であるが、SX01と同軸とみられる。遺物は赤彩された壺の胴部が出土している。

SX01・02の軸と開口部の位置は、前谷1次の第1号方形周溝墓、前谷10次のSD04とほぼ同じで、他に前谷6次のSX03、前谷8次のSX01、前谷9次のSD04とも共通する可能性がある。この内前谷9次のSD04は略完形の土器が多数出土しているため方形周溝墓の可能性が高く、前谷1次の第1号方形周溝墓は福田聖氏により周溝持ち建物と指摘されている。今回検出したSX01・02は、互いに切り合っている点や、同時期の溝状遺構にも切られていること、出土遺物は甕形土器が多い点などを考えると周溝持ち建物である可能性が高い。

溝状遺構は、6条検出した。SD01・04・05の底面は西側に向かって傾斜しており、調査区内の地形も西側に傾斜しているため、用水路としての役割を持っていたとみられる。SD06も軸は異なるが底面の中央部分が一段下がる構造になっているため、上記の遺構と同じ役割であったと思われる。溝状遺構からは遺物の出土が少なく、SD06上層から平安時代の須恵器が出土しているため、この時期の遺構としては調査区で一番新しい。

周溝状遺構との関係については、SX01はSD06、SX02はSD05・06と切り合い関係であり、いずれも溝が周溝状遺構を切っている。溝状遺構と周溝状遺構の位置を見ても、併存していたとは考えられないため、調査地の土地利用形態が周溝持ち建物などの生活の場から用水路を含めた生産の場へと変化していったと考えられる。

## 2 平安時代から中世までの遺構と遺物

本次の調査では溝状遺構1条を検出した。遺物は流れ込みのものが多く、時期の比定は出来ないが、切り合い関係から平安時代から中世にかけての遺構とみられる。前谷遺跡内では、幅が狭く浅い溝として、前谷9次のSD03や前谷10次のSD01などがある。いずれも区画溝としての機能が想定されている。

## 3 まとめ

以上のように前谷遺跡第11次調査では、弥生時代後期後半から古墳時代前期の周溝状遺構が2基と溝状遺構6条を検出し、調査地の利用形態の変遷について明らかにすることができた。なお、同遺跡は、市内の鍛冶谷・新田口遺跡や南原遺跡と比較すると、竪穴建物が検出されない点が大きな特徴となっており、今回の発掘調査においても竪穴建物を確認することができなかった。

鍛冶谷・新田口遺跡では、集落の形成期は方形周溝墓と周溝状遺構で構成され、古墳時代以降になると竪穴建物が出現し、集落遺構の主体となっていく。前谷遺跡は、前谷1次の第1号方形周溝墓、前谷3次の周溝状遺構について調査報告書では古墳時代前期五領式期のものとしているが、頸部が鋭角な壺や器台型土器、小形丸底埴など古墳時代以降に出現する器種が確認されていないことから、鍛冶谷・新田口遺跡や南原遺跡で竪穴建物が出現する段階より前に集落が途絶してしまった可能性もある。

今後の発掘調査の継続の中で前谷遺跡を含めた低地集落の様相や、変遷について明らかにしていきたい。

## 参考文献

田辺晋

2013『東京低地と中川低地における最終氷期最盛期以降の古地理』『地学雑誌』122巻6号

福田聖

2000『方形周溝墓の再発見』同成社

2014『低地遺跡からみた関東地方における古墳時代への変革』六一書房

## 調査報告書

1978『前谷遺跡発掘調査概要』戸田市文化財調査報告XIII 戸田市教育委員会

2012『前谷遺跡』埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第394集

財団法人埼玉県埋蔵文化財調査事業団

2020『前谷遺跡Ⅶ』戸田市文化財調査報告XXX 戸田市教育委員会

2021『前谷遺跡Ⅷ』戸田市文化財調査報告32 戸田市教育委員会

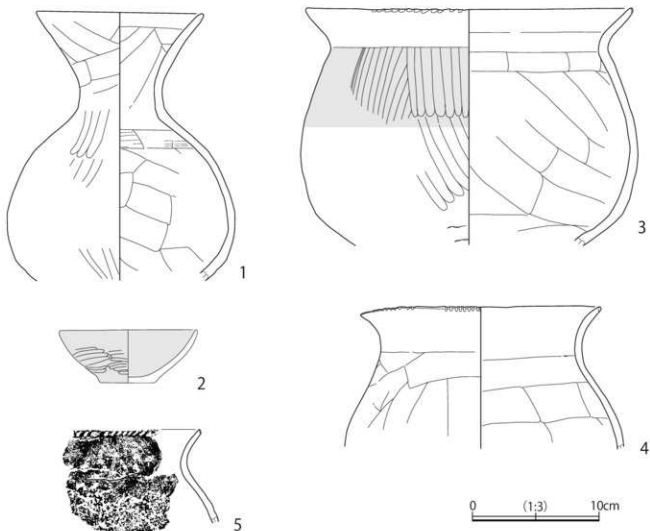
2021『前谷遺跡Ⅸ』戸田市文化財調査報告33 戸田市教育委員会

## 前谷遺跡試掘調査出土遺物

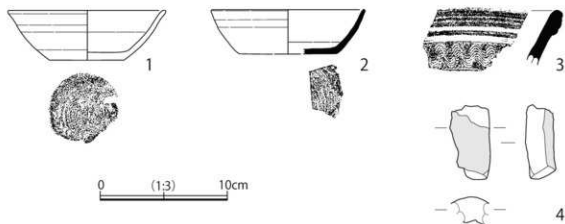
ここでは、前谷遺跡包蔵地内の試掘調査で出土した遺物について紹介する。図化した遺物は、上戸田2-25-2他と上戸田2-27-8のものである。

上戸田2-25-2他は、前谷11次の南側に位置し、試掘調査では、弥生時代後期から古墳時代前期までの溝状遺構、土坑、ピットを検出した。今回図化した遺物が出土したのは、トレンチ壁際で検出した溝状遺構である。土器は遺構確認面より約0.3m上層の地点で検出し、土層の観察から溝状遺構の覆土中とみられる。遺物は複数の土器がまとまった状態で出土し、遺構から遊離したものを主に取り上げた。今回図化した遺物は5点で、鉢（2）は略完形、壺（1）と甕（3・4）は口縁部から胴部まで復元することができた。出土した遺物は甕が多いが、甕（3）は、外面をヘラミガキし一部を赤彩するなど一般的な甕とは異なる技法を用いるため、祭祀等の特殊な場で使用されたとみられる。遺物の出土状況などからも溝状遺構については、方形周溝墓であった可能性が高い。

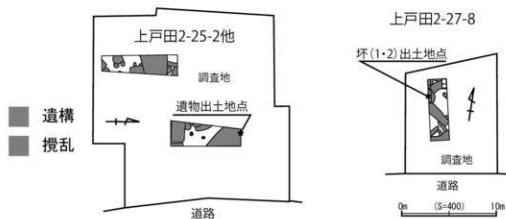
上戸田2-27-8は、前谷8次・9次の西側に位置し、弥生時代後期から古墳時代前期までの溝状遺構、土坑、平安時代の土坑を検出した。今回図化した遺物は4点で、この内環（1・2）は、平安時代の土坑から出土した。土坑からは焼土とともに、骨粉状の物質も出土したため、平安時代の火葬墓とみられる。



第29図 上戸田2-25-2他出土遺物実測図



第30図 上戸田2-27-8 出土遺物実測図



第31図 上戸田2-25-2 他、上戸田2-27-8 平面実測図

第11表 上戸田2-25-2 他、上戸田2-27-8 試掘調査出土遺物観察表

探検番号 試掘番号	出土 遺物	種別 器種	調査 時期	位置(m) 1区 器高 底径	重量(g)	成形・技法の特徴	胎土	焼成	色調	備考
29-1 8-1区層11-1	試掘(上 戸田2- 27-8)	土師器 甕	日輪部 ～胴部	13.2 (21.2)	389.1	日輪部ナズ(模)、ヘウナズ (模・模) 胴部ヘウナズ(模)→ヘウナズ カ	外周 φ20cm以上小破断量 φ10cm少少量	良	外周 上・赤・黄緑(10YR7/2)	
				-		内周 上・赤・黄緑(10YR7/3)				
29-2 8-1区層11-2	試掘(上 戸田2- 27-8)	土師器 鉢	日輪部 ～底面	11.8 4.2 3.6	95.0	ナズ(模)→ヘウナズ(模)、赤筋	外周 φ20cm以上小破断量 φ20cm少少量	良	外周 赤(10R5/6)	
				-		内周 赤(10YR6/4)				
29-3 8-1区層11-3	試掘(上 戸田2- 27-8)	土師器 甕	日輪部 ～胴部	25.91 (19.6)	298.0	日輪部筒目、日輪部模ナ ズ、胴部ヘウナズ(模)、赤 筋	外周 φ10cm中少量	良	外周 上・赤・黄(5YR6/4)	
				-		内周 上・赤・黄ナズ、胴部ヘウナズ(模)				
29-4 8-1区層11-4	試掘(上 戸田2- 27-8)	土師器 甕	日輪部 ～胴部	19.3 (11.3)	425.0	日輪部筒目、ナズ(筒め)	外周 φ20cm以上小破断量 φ10cm中少量	良	外周 黄緑(10YR6/1)	
				-		内周 ナズ(模)				
29-5 8-1区層11-5	試掘(上 戸田2- 27-8)	土師器 甕	日輪部 ～胴部	- (7.4)	60.2	日輪部筒目、日輪部模ナ ズ、胴部模熱	外周 φ10cm以下白色粒子少量 φ10cm以下砂少量	良	外周 黄緑(10YR6/1)	外周模熱
				-		内周 上・赤・黄ナズ、胴部ヘウナズ(模)				
30-1 9-1区層21-1	試掘(上 戸田2- 27-8)	土師器 甕	日輪部 ～底面	12.53 4.9 (6.6)	89.8	口内口部、底面筒目(赤筋) 底面(日輪部)ヘウナズ	外周 φ10cm中少量	普通	外周 黄(5YR6/6)	
				-		内周 口内口部				
30-2 9-1区層21-2	試掘(上 戸田2- 27-8)	土師器 甕	日輪部 ～底面	12.23 3.5 (7.6)	49.0	口内口部、底面筒目(赤筋) 底面(日輪部)ヘウナズ	外周 φ10cm以下白色粒子少量 φ20cm以上小破断量	良	外周 黄緑(10YR6/1)	
				-		内周 口内口部				
30-3 9-1区層21-3	試掘(上 戸田2- 27-8)	土師器 甕	日輪部 ～胴部	- (4.6)	53.4	口内口部、波状文	外周 φ10cm少少量	良	外周 黄緑(10YR6/1)	
30-4 9-1区層21-4	試掘(上 戸田2- 27-8)	瓦	-	- 2.2	82.1	-	外周 φ10cm以下白色粒子少量 φ20cm以下赤色粒子少量	良	外周 上・赤・黄(2.5YR5/4)	外周模熱
				-		内周 -				

# 写 真 图 版



1 西側調査区 完堀（東から）



2 東側調査区 完堀（西から）



1 東側調査区 完掘 (北西から)



2 第1号周溝状遺構断面 A-A' (南から)



3 第1号周溝状遺構断面 B-B' (東から)



4 第1号周溝状遺構断面 D-D' (西から)



5 第1号周溝状遺構北構完掘 (北東から)



6 第1号周溝状遺構南溝完掘 (西から)



7 第1号周溝状遺構南溝完掘 (西から)



8 第1号周溝状遺構 遺物出土状況(1) (南から)



1 第1号周溝状遺構 遺物出土状況(2)(東から)



2 第2号周溝状遺構壁断面 A-A' (北から)



3 第1・2号周溝状遺構完掘 (東から)



4 第1号溝状遺構断面 A-A' (北東から)



5 第1号溝状遺構・第2号土坑断面 (北東から)



6 第1号溝状遺構・第2号土坑完掘 (北東から)



7 第2号溝状遺構完掘 (南西から)



8 第3号溝状遺構断面 B-B' (西から)





1 第3号溝状遺構完掘(1)(東から)



2 第3号溝状遺構完掘(2)(東から)



3 第4号溝状遺構断面B-B'(北から)



4 第4号溝状遺構完掘(南東から)



5 第5号溝状遺構断面B-B'(西から)



6 第5号溝状遺構完掘(南東から)



7 第6号溝状遺構断面A-A'(西から)



8 第1号周溝状・第6号溝状遺構東壁断面(北西から)



1 第6号溝状遺構完堀（東から）



2 第7号溝状遺構完堀（北から）



3 第1号土坑断面 A-A'（北から）



4 第1号土坑完堀（北から）



5 第3号土坑完堀（南から）



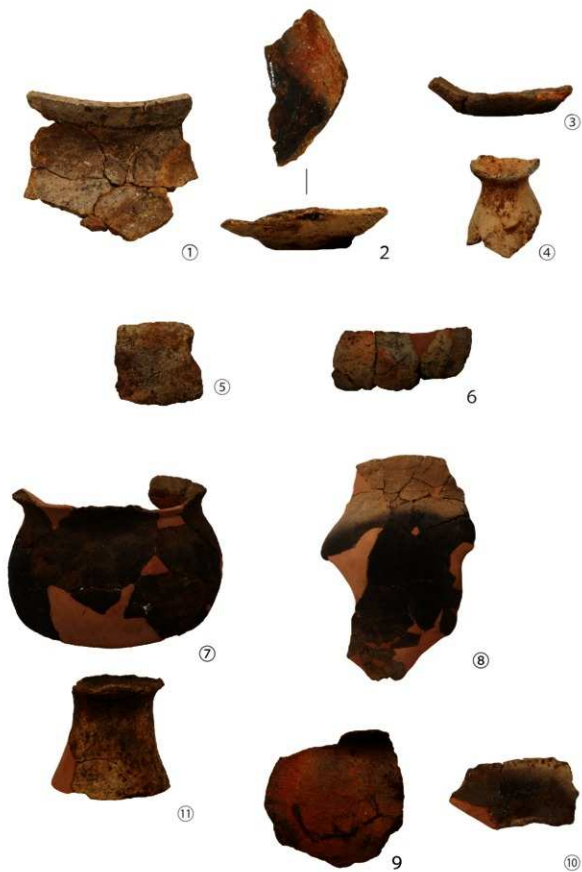
6 第4号土坑完堀（西から）



7 遺構外土師器壺出土状況（南から）



8 基本土層（南から）



第1号周沟状遗構



12



13



14

第1号周溝状遺構



①

第2号周溝状遺構



1

第1号溝状遺構



①



②

第6号溝状遺構



1

第1号土坑



2

第3号土坑



1



2



3

第3号溝状遺構



遺構外出土



試掘上戸田2-25-2他



1



2



3



4

試掘上戸田2-27-8

# 報告書抄録

ふりがな	まえやいせきじゅういち まいぞうぶんかざいはくつちょうきほうこくしよ							
書名	前谷遺跡Ⅺ 埋蔵文化財発掘調査報告書							
副書名								
巻次								
シリーズ名	戸田市文化財調査報告							
シリーズ番号	34							
編著者名	今井 源吾							
編集機関	戸田市教育委員会							
所在地	〒335-8588 埼玉県戸田市上戸田 1-18-1 Ⅱa 048 (441) 1800							
発行年月日	2022 (令和4) 年 3 月 31 日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村 遺跡番号		北緯	東経	調査期間	調査面積 (㎡)	調査原因
まえやいせき 前谷遺跡 だいいちじゅういちちようさ 第11次調査	まがし かみまが 戸田市上戸田 2丁目25番1	11224	06-003	35° 48' 48"	139° 40' 49"	2021.7.12 ～ 2021.8.25	207.49	個人住宅 建設
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項			
前谷遺跡	集落跡	弥生時代 後期後半 ～ 古墳時代 前期	周溝状遺構 2基 溝状遺構 6条 土坑 4基	土師器				
		平安時代 ～中世	溝状遺構 1条	須恵器				
		その他	ビット 9基	形象埴輪 陶磁器 金属				
要約	<p>本調査地点は、周知の埋蔵文化財包蔵地である前谷遺跡の包蔵地範囲に属し、JR埼京線戸田駅から南東に約600mの戸田市上戸田2丁目25番1に所在する。</p> <p>前谷遺跡は、利根川・入間川・荒川によって形成された平坦な沖積地（荒川低地）に氾濫や流路変更によって左岸に発達した微高地上に立地している。</p> <p>調査の結果、弥生時代後期後半から古墳時代前期では周溝状遺構 2 基、溝状遺構 6 条と土坑 4 基を検出した。平安時代から中世では溝状遺構 1 条を検出した。その他時期不明のビットを 9 基検出した。出土遺物は弥生時代後期から古墳時代前期の土師器、古墳時代の形象埴輪、平安時代の須恵器、近世の陶磁器を検出した。</p> <p>今回の発掘調査によって、調査区周辺は弥生時代後期後半から古墳時代前期の周溝状遺構が形成された区域にあたることが判明した。</p>							

戸田市文化財調査報告 34

前 谷 遺 跡 XI  
埋 蔵 文 化 財 発 掘 調 査 報 告 書

発行・編集 埼玉県戸田市教育委員会  
〒335-8588 埼玉県戸田市上戸田1-18-1  
印 刷 関東図書株式会社  
〒336-0021 埼玉県さいたま市南区別所3-1-10  
発 行 日 令和4年3月31日